

宗教工芸新聞 2010年新春号 ダウンロード版

鼎談 日本の宗教風土と、これからのお仏壇

## 熱く語る 3 人の論者



青木孝一氏

株式会社はせがわ取締役  
戦略経営協会専務理事  
昭和 24 年生まれ  
東京大学文学部卒業



長谷川房生氏

株式会社はせがわ代表取締役  
昭和 21 年生まれ  
早稲田大学政治経済学部卒業



大村英昭氏

関西学院大学教授  
浄土真宗本願寺派圓龍寺 16 世  
専門は臨床社会学・宗教社会学  
昭和 18 年生まれ  
京都大学文学部卒業

鼎談は 2009 年 7 月 はせがわ東京本社において開かれました

《司会》

住田孝太郎

株式会社宗教工芸社代表取締役

鼎談 日本の宗教風土と、これからのお仏壇

■豊かさとお仏壇 仏教の広がりとお経済的豊かさの関係

司会 今日はお仏壇とは一体何なのか、そして日本人の信仰についてお話をさせて頂きたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

さて、西日本の仏壇と言いますと本尊を祭祀しますが、関東から東北の方へ行きますと、元々仏間ではなく、囲炉裏垣というリビングに、大工さんが作った造り付けの雛壇に位牌を沢山置くというような、宗教風土の違いがあると思います。

大村 それは浄土真宗のかどうかということにも関わって来ると思いますが、例えば浄土真宗の場合、現在でも東北・関東一円は浄土真宗が非常に弱い所なんです。仏壇というものが、庶民の間に広がるのは江戸時代、元禄期以降ですね。立派な、もう美術工芸品ついでいえるようなお仏壇というものは…当初は、『豪農』というか、かなり余裕があるところに入ったわけです。

長谷川 名主・庄屋といった豪農階級、そして武士階級ですね。

大村 どちらかという武門は禅宗。関東は特にそうですね。東北もそうですね。だから、立派な、お浄土の形というものを再現するようなお仏壇の文化は西日本なんです。それもせいぜい、駿府（静岡）から西。それから北陸、越後（新潟県）から西ですね。今でも、東京を含む関東圏、東北や北海道…今は北海道でも真宗は非常に広がってはいますが、こうした地方は、未だに浄土真宗はすごく弱いんです。そういう弱い所、浄土真宗の広がりを見せなかつた所で、私から見るとお仏壇とは到底思えないような位牌をただ並べておくだけの、あるいは、施餓鬼壇といいますが、そういうものが広がっているわけです。

長谷川 水屋に位牌だけ祀ったんですね。それはね、厳しい自然環境が背景にあるんですね。つまり、信仰というものは経済的に豊かさとかかなり密接な関係があるんですね。真宗は、本願寺に倣おうとしましたけれど、それ以外の所はだいたい棚なんですね。魂棚と呼ばれる場所に御本尊を祀るのはまだ豊かな方で、まあ、位牌だけちょっと祀った。西日本の方でもそうなんですね。

東北の方は、水屋仏壇といって、水屋の中に位牌を置いたということで、実際には水屋のような立派なものさえ持てなかつた所も小作人にはいっぱいあったと思いますよ。

水屋 食器棚の別名。

アニミズムからシャーマニズムぐらいのレベルの所に、禪宗が入って来ましたでしょ。禪宗のお坊さん達がお寺を建てたりして、その後は一応、檀家制度でやってきたんですが、それで果たして教化が進んだかというところ、そうではないんですね。葬式はやった、ということに過ぎないと思うんですよ。

大村 そうですね。禪宗といえば、曹洞宗でね『宗勢調査』というのをされるんですよ。十年に一回ずつ、近代曹洞宗教団としてやっておられます。それで、曹洞宗の佐々木宏幹先生（駒澤大学名誉教授）から『大村先生のことはいいいですね。あなたの所の浄土真宗だと、御本尊といえはつきりしててでしょ』といわれるんですよ。『そりゃまあ、阿弥陀如来様が六字の名号のどっちかですね』とお答えすると『いいですなあ。なにせ曹洞宗を見てください。御本尊といっても分らない。曹洞宗のお仏壇に入れてある御本尊は何ですかと聞いても、答える人が少ないんですよ』と。それで、改めて僕なんか『はあ、そうですか。何が御本尊でしょうか』とお尋ねすると、まあ御釈迦様だと。一番基本は。それか道元禪師だということなんですが、さらに佐々木宏幹先生は『でも大村君、考えてみてよ。あの豊川稲荷は、曹洞宗なんですよ。お稲荷さんも曹洞宗』って笑われてね（笑）。

長谷川 結局、仏教が広まったというのは、豊かさが背景になったんだろうと思いますね。日本人は『神も仏もあるものか』と言うことがありますよね。これはもう、この世が終わりだっというような意味ですね。神、仏がある、というのが今の日本人の基本的な、世の中に対する信頼感の源にはなっていると思うんですよ。

■文化的豊かさの中でのお祀りのあり方 柳田國男の「魂棚」説

長谷川 ところが、その神様のルーツはどこなのかというと、よく原始神道だなどと言われますけどね。だいたい万葉集あたりまでは、死んだ人の魂は山に帰るといったくらいの考えなんです。当時はやっぱり、文化的にも物質的な生活でも非常に貧しい時代でしたから、まあその程度でしか供養ができなかったわけですね。

それが聖徳太子の時代になってきますとね、今度は戦争が起きます。どんどん殺しますね。そうしたら、殺された相手側の命の祟りがあるんだということになる。で、仏教で祟り鎮めをしようとするわけです。でも、こうした祟り鎮めを盛大にやるっていうことは、そういうことをする余裕ができたからとも言えますね。

アニミズム 生物や物の全てに靈魂が宿っているという考え方。アニミズムの語源であるアニマは魂・精霊・息吹という意味を持つ。

シャーマニズム シャーマン（巫師・霊媒師）により、様々な霊と交信する宗教形態。

豊川稲荷 愛知県豊川市にある曹洞宗寺院。正式名称は円福山豊川閣妙嚴寺。日本三大稲荷の一つ。

原始神道 仏教が入ってくる以前の神道のこと。

万葉集 八世紀中頃（奈良時代中期）に成立した日本最古の和歌集。収録されている和歌は七世紀後半からあり、全部で四千五百首を収録。

司会 仏教の広がりには豊かさ、特に経済的な豊かさとの関係が深い、ということですか？。

長谷川 物質的な豊かさや精神的な豊かさという背景が出てきたから、ちゃんとやろうということですか。それはまだ当時は貴族社会だけのものだったわけですが、それからさらに世の中が豊かになってくると、坊さんという職業に就く人が増えてきます。僧侶というのはお布施で生かしてもらうわけで、社会に僧侶を養う、経済的基盤ができたということです。仏教は、そういう人達が日本中に広め、次第に伝播していったということだと思います。

ですから、柳田國男の言う『魂棚』の時代というのはね、社会のレベルが貧しいんですよ。今の日本がそうした貧しさのままなのかと。そうじゃないですよ。その後私達は、ずっと文化的豊かさを身につけてきてるんです。

今は、価値観にしても様々ですよ。暮らしのあり方や考え方、振舞い、それに人との交流のあり方も非常に豊かな世界になっています。

こうした豊かさの中で、大切な人々を亡くした後の、私達の心の安穩というものをどうやって確保して行けばいいのかという問題があるわけです。業界の中には柳田の『先祖の話』の中『仏壇は魂棚だった』という言説の部分だけを取り上げ、ただ魂を招いて野花を飾れば良いということをやりますが、経済的に豊かになった今では、そんなレベルじゃもうないだろうって、私は思っています。

### ■〈おかげ&たたり〉コンプレックス

司会 大村先生の著作を拝見しますと、魂鎮めということを非常に強烈に書いておられますが、大村先生は、この魂鎮めの、日本仏教史もしくは精神史の中における位置付けと、魂棚というものについてはどのようにお考えでしょうか。

大村 まずね、さつき長谷川社長もおっしゃったように怨霊を鎮める、つまり『御霊信仰』というものはすごく早くからあったんですね。それがどうして起こってきたのかを考えないと……。だから魂棚というのね、やっぱりこれは施餓鬼壇の伝統からだと思うんですよ。例えば、死者に家族・後継者がちゃんとあれば、祀るということによって、柳田國男的に言えば、次第に死者の靈魂も『先祖霊』として融合して、恵みの神になって行くんですね。でも、初め荒魂の間は下手にいじくと

柳田國男（一八七五—一九六二）日本の民俗学者。主著に『遠野物語』『蝸牛考』『海上の道』『先祖の話』など。

『先祖の話』 柳田國男の著作。昭和二十一年四月に筑摩書房から刊行された。魂棚の記述は以下の通りである。

……寧ろ盆暮れ以外にも先祖と対面する機会を多くせんが為に、日頃から居間の一隅に之を作って居たのである。年忌日の供養がしげくなって、勿論その為にも之を必要としたらうが、本来はそれよりももっと遠い、先祖の霊の祭壇であったことは、特に荒忌の新精霊の為に、必ず別の棚を作るという者が、最も多いのを見ただけでもほぼ疑いが無い。ましてそれ以外にもまだ幾つもの証拠とあってよいものがある。佛壇などという言葉が標準語になって居る為に、誤解をする人がまだあらうが、

崇りをなすと…こういう感覚だったようですね。そこから『不浄霊』という言い方を、今でも新宗教がよく使いますけれど、例えば恨みを吞んで死んだ所謂『変死者』ですね、自然死ではない人…昔ですと海難事故を始めとする災害なんかで死んだ人を、その施餓鬼壇で以って供養するという風が広がっていきました。

大村 その前にね、私は日本の宗教心のことを簡単に（おかげ&たたり）コンプレックスって言っています。（おかげ&たたり）の複合だとね。これは全く的確な表現だと思ってるんです。民俗学者は嫌がるんですけどね、これで一発なんですよ。『相変わりませず』って言いますよね、変わらないと。昨日と同じように生活ができる、お陰様でと喜ぶんですよ。つまり、日常の平穏無事をお陰様として喜ぶのがひとつ。

ところで、日本のことをよく、穏やかな天候だとか、恵まれた自然であるとか言う方がいますよね。でもね、僕に言わせたら日本ほどきつい所ないです。非常に厳しい…。

司会 それはまた新しい視点ですね。

大村 いえいえ…天変地異の多い本当に厳しい自然です。多分、南洋へ行けば、もうこれは楽じゃないですか。何もハワイまで行かなくても。ただただ暑いだけですから…（笑）服装も軽くていいしね。でも日本の場合、四季がものすごく激しいでしょ。一方では熱帯ですよ。一方はもう寒帯ですよ。しかもそれらの変化が速いんですよ。ですからまず、時間感覚を大変研ぎ澄ましてきました。それに加えてさきほど申し上げましたように、天変地異というものも非常に多かったです。昔はね、それはなぜだろうかというんで…これ『変事』って言ってたんですね。変わり事。

司会 変事ですか…。

大村 それに対して、先に申しましたように『相変わりませず』というのは、まさしく変わらない。日常の平穏無事なんです。昨日と同じ日常生活ができる、それがとても尊いことだとして『お陰さま、お陰さま』と言って喜ぶんですよ。一方では。

でも、いつも喜んではいられなくて、ものすごい天変地異が…地震はあるし風水害も起こるし、でね、そんなときは、『祟りだ！』と…。これが欧米ではね、『神の怒りだ』ってなるんですよ。日本では、ある時期からですけどこれが『御霊信仰』

魂棚の奥なつかしや親の顔 去来

佛壇は本来常設の魂棚に他ならぬのであった。

御霊会 政争での失脚者や、戦乱での敗北者など恨みを抱いて亡くなった者の霊のことを御霊と呼ぶが、御霊は恨みを抱いた相手に対して災いをもたらすと考えられた。御霊会は御霊を鎮める儀式であり、神として祀ることで除災を願い、さらには福德をもたらすとした。記録上御霊会が最初に行われたのは貞観五年（八六三）である。

荒魂（あらたま） 災厄をもたらしたりする、荒々しい神の側面。柳田民俗学では死者の霊魂は最初は荒魂であり、子孫の祭祀を受けることで和魂（にぎたま）になるとした。

になってくるんです。崇りであると…。

司会 早良親王ですとか、菅原道真ですね。

大村 そうですね。これは、平安時代に都でもものすごい天変地異が起こりまして、雷は鳴るは冷害が起こるほど、稲穂への害が出てくるんですね。それで非常に困りはてたわけです。そのときに『ああ、菅原道真は怖いなあ』と。やはり偉大な人であればあるほど、そう考えられたんです。時の為政者の側から見たら『わー、こりゃ崇りだ』というわけですね。こういう話をさらに進められたのが、梅原先生で、聖徳太子だったんです。日本国怨霊の一番手というか…。

司会 法隆寺がその鎮魂の為という…。

大村 そうそう、法隆寺。怨霊鎮めの為に造られたって言われていますね。こりゃもう明らかに、一族全員ジエノサイドですよ。ほとんど殺されていますね。

司会 ジエノサイド、つまり虐殺された…。

大村 虐殺されてますね。ですから当然、殺した側の人間からしたらどれだけ怖いかと。何か起こらなきゃいいかと思っていたら、起こってくるわけですね、それ崇りですよ。一方、欧米・キリスト教圏ではこうした天変地異、さらには『変事』をです、マックス・ウェーバーなんかはこれを、ときおりに起こってくる非日常的な苦難などと言っています、さっきも申しましたように『神の怒り』と表現します。

司会 先生が今おっしゃられる神というのは、所謂キリスト教の…。

大村 ユダヤ教時代からもうずっと言ってますよね、神の怒り、神の怒りと。『神の怒りに触れて、こんなひどい目にあうんだ』、だから反省せよと。預言者達がそう言って出て来られるわけじゃないですか。日本の場合は、それが上手に『崇りだ』となっ

早良親王 崇道天皇とも称される。代表的な御霊の一つ。天平勝宝二年(七五〇)? (延暦四年(七八五))。兄・桓武天皇の即位と同時に立太子。延暦四年(七八五)、藤原種継暗殺事件に連座して立太子を廢され憤死した。桓武天皇の息子の発病や桓武天皇妃の病死などは早良親王の崇りであるとされた。延暦十九年(八〇〇) 崇道天皇と追称され、大和国に移葬された。

菅原道真 天神様として崇敬を受ける御霊の代表人物。承和十二年(八四五) 延喜三年(九〇三)。右大臣まで昇るが、左大臣藤原時平に讒訴され太宰府に左遷され、その地で没した。その後、藤原時平は三十九歳の若さで亡くなり、天皇の皇子も次々に病死。ついには朝議中の清涼殿に落雷があり、道真左遷に関わった大納言藤原清貫をはじめ、朝廷要人に多くの死傷者が出た。これらを道真の崇りと怯えた朝廷は、道真の地位を回復し、太政大臣を贈り、道真の御霊を鎮めるべく、

た…初めからそんなきれいに言ってたわけじゃないと思いますけど、もう聖徳太子からずっと菅原道真までね、朝廷儀式として怨霊鎮めをやるようになった。それもね聖徳太子は仏教を導入された方ですから、仏教でやるのが一番いいと…。

司会 うーん、なるほど。

大村 十七条憲法の第二条では『篤く三宝を敬え』ですからねえ。三宝とは、仏・法・僧ですから。これを敬えとおっしゃっているのが憲法ですよ。ということはね、皆さんあんまりおっしゃられないんですけど、仏教が国教なんです。国教として定められたということじゃないですか。間違いないです。これを覆したのは明治以降ですよ。明治欽定憲法になって、初めて仏教が退けられるんです。それまでは、仏教が国教ですよね日本は。

長谷川 皇室も仏教をずっと崇拜されていられています。

大村 はい。もつとこのことをはつきり言わないといけませんよ。柳田國男などは、逆の立場を代表するイデオログなんです、明治以降の。この人はね、仏教嫌い、もうとにかく外したかったですよ仏教を。本当は違いますよね日本は…聖徳太子が、十七条憲法を定めて以来の仏教国だったんです。まあ、起草者は聖徳太子ではない、という説の方が最近では強いんですけどね。実際には聖武天皇の時代、奈良朝からだと言われていますが、それ以降は間違いない、十七条憲法の第一条と第二条とこの二つで国家としての日本を決めて行こうとされたわけなんです。

長谷川 柳田は仏教抜きでお盆を説明しようとしているわけですね。それが『先祖の話』ですが、仏教が国教というのは基本ですよ、それをよく理解する必要があります。

大村 で、僕はね、うちの御開山の親鸞聖人が何で『和朝』っておっしゃったのかって思ってたんです…。何でかと言いますとね、それまでは日本を『わのくに』と言う場合は…。

長谷川 にんべんに、矮小の意味の倭で…。

北野天満宮を建立した。

マックス・ウェーバー  
(一八六四～一九二〇) ドイツの社会学者。経済学者。マックス・ウェーバーは自然災害を「神の怒り」と表現。「神の怒り」は神殿に犠牲を供えなどの呪術的な行為で鎮められようとしてきたが、宗教改革以降、合理主義が広がり、こうした呪術は排除されるようになった。マックス・ウェーバーは著作『呪術からの解放』でそれを論じた。

十七条憲法 推古天皇十二年(六〇四)に聖徳太子によって作られた十七条から成る条文。第二条は以下の通り。「二に曰く、篤(あつ)く三宝を敬へ。三宝とは仏(ほとけ)・法(のり)・僧(ほうし)なり。則ち四生の終帰、万国の禁宗なり。はなはだ悪しきもの少なし。よく教えうるをもつて従う。それ三宝に帰りまつらば、何をもつてか柱かる直さん」

大村 そうそう。野蛮という意味で倭。その程度だったんですよ。それが、十七条憲法を日本国として決めることによって、『和の国』となるんですよ。世界的に認められる、和朝として。その根本が聖徳太子の十七条憲法だったから、御開山は、やはりこれをものごく尊重なさったと思うんですね。

司会 青木取締役はいかがですか、今のお話を聞かれて…。

青木 先ほどおっしゃっていた『神の怒り』ですけどね、これ、キリスト教ではなくユダヤ教までの話でして。キリスト教の神は怒りの神ではなくて、愛の神（笑）という印象が強いですね。

■『先祖の話』と戦没者の位置付け、そして崇り

長谷川 あの…その前にね、柳田國男がどうして、戦後すぐというタイミングで『先祖の話』を出したのかということなんですけど、戦争で亡くなった人達の悲しい死にざまを、何とか癒したいという篤い思いがね、当時の日本人にあったと思うんです。そこでこの話が出てきたんだと。大阪大学教授の川村邦光さんが、こういった近代の霊魂についてたくさん書いておられますけどね…戦死者の慰霊は靖国神社で行うということと統一されて行きますでしょ、ところが地方ではね、そんな所に行ったら成仏しないと…随分混乱しているんですよ。当然ですよ。いやもう靖国に絶対祀ったらいかなという人がいっぱいおりましたよ。

大村 その当時からね、靖国なんて嫌だ嫌だと言ってた人、大勢おられたわけですよ。そこところをね、やっぱり柳田はすごく心配していたんです。本人はあんまり言ってないけど…『先祖の話』では、ほとんど靖国なんて言ってないんです。ところが、ある時からやっぱり妥協していくんです、国家神道ですから。国がやってるんですから…柳田は何ととっても国の国学者なわけですからね。

司会 今、長谷川社長がおっしゃられたのは、三百何十万人という戦没者の方がいらっしやって、日本の敗北ということによっ

川村邦光（一九五〇～）  
大阪大学教授。

てその人達の死をどのように位置付けていくのかという、非常に大きなテーマがあったということですね。

青木 負ける前からですね、それこそ日清・日露の時から人々が死に始めて、そうした兵隊を民衆が祀りするということが…。

司会 日清・日露では、まだ勝ってたからいいんですけど。それは英霊としてお国の戦争で勝ったということでの意義付けができたと思うんですけど、太平洋戦争は負けましたから…。

大村 日本は怨霊鎮め、全て成仏させるということで考えてるわけですから…さっきから何遍も言いますように、仏教国ですからね。なのに、靖国神社みたいな変なものを急に作っていくんですよ。庶民は、死んだ人の霊は迷っていると考えますよ。みんな恐れたんですね、だから、国ももう必死に教育しますよ、小学校からものすごく教育するんです。目茶目茶やりました。それで、今までの伝統的な仏教の考え方と全然違うものを国民に叩き込んだ。

日本では、怨霊鎮めと仏教を重ねてきたんです。聖徳太子を契機にしてね…しかしそういうのと全く違うわけですよ。戦死者って言いますが、変死ですよ、これは。恨みを吞んで死んだ、本来怨霊じゃないですか。

しかもみんな若い人ですから…お嫁さんも無いわけですよ。東北では皆、花嫁人形を作ってね、死んだ若者と一緒に置いて慰霊するというのもやっていますよ。

司会 東北では立石寺さんへ行きますと、お子さんを早くに亡くした方が、その子の成長に合わせて奉納する人形もだんだん大きくしていくというような風習があります。

大村 そういったことを、靖国は全然受け止めようとしてないわけですよ。国家神道の行き方とは違うんですね。要するにその点を柳田は非常に心配したんですよ。

■死が身近であった時代の感覚 「先祖の話」に込められたもの

立石寺 山形県山形市にある天台宗の寺院。山寺の名前で知られている。松尾芭蕉の句「閑さや巖にしみ入る蟬の声」は立石寺で詠まれたもの。

司会 『先祖の話』を實際読んでみますと、話がぼんぼん飛んで非常に難解な本ではありませんが、先祖というものを改めて位置付けようとしていることが分かります。今、長谷川社長が言われるように、柳田國男はこれを書くことによって戦没者の魂のきちんとした位置付けを考えたいですね。南方や大陸で、死んでそのままになっているのではなく、彼らだってお祀りすることで、お盆になったらちゃんと帰ってきますよと：そうやってお祀りして、先祖として位置付けることで、亡くなった人達の魂との結びつきを継続していきたいということじゃなかったかと思えます。

長谷川 その通りですね。ただそこには、戦争で死なせた人達に対して、申し訳ないという思いがものすごくあるわけです。可哀そうにと思う…。自分は生き残って、とかね。今頃は、どうしているんだろうか…。そこにやっぱり、日本人の崇り意識が働くんですね。今でこそ崇りなんてあんまり言わなくなりましたが、昔は崇りの話がものすごく多かったです。私どものこの商いがね、暗いのはなぜか、坊さんとかが暗いのはなぜかというね…。

大村 (笑)。

長谷川 そりゃもう、崇りがあるからなんですよ。崇りとそれにまつわる暗い話がいっぱいあるんです。戦争で死んだとか、病気で死んだとか…。もうそういうことは、なるべく遠ざけたいんですね。一般的に。

司会 戦前までですと子供もたくさん生まれる。一方ではどんどん死んで行く…戦争もあれば飢饉もある。大村先生のおっしゃる天災もあるということで、人の死が非常に身近だったわけですよ。

長谷川 身近でしたねえ。戦前の、死が身近であった時代でも、死ぬということとは、暗くてもう一番みんなが嫌ったことですよ。だって、生まれてきた子供がようやく這うようになった、歩くようになったと思ったらそれが、ばたつと死ぬわけですよ。そうしたら、なぜ死んだんだろう、あの子はどこへ行ったんだろうというものすごく悲痛な思いがあるわけですよ。その後でまた、跡取りの男の子がね…上の子は死んだけど、二番目が生まれてこの子にと思って期待していたら、それがまた死んだとかね。しょっちゅうですよ、そういうこと。

司会 はい…。

長谷川 そうするとやっぱり、何か崇りでもあるんじゃないかなろうかとね。逝ってしまった子供は、あれからどうなったんだろうかとか、もう不安でいっぱいですよ。だからこそ祀りごとを盛大にやっただけです。そうすることによって魂を鎮め、合わせて、こちら側の者が死者に対して一生懸命できるだけのことを尽くしたんだということで自責の念をも解消していく。その両方の意味があっただけですね。

■仏壇は死者供養のものか？先祖だけでは救済されない

司会 『先祖の話』については仏壇が死者供養ばかりに傾くのはどうなんだろうかと。それは本来の仏壇の本義からは外れているのではないのか、といった議論が常にあるわけです。柳田のように仏壇を魂棚というものに限定することに対して、これでもいいという見方をされる方もいらっしゃいますけれども、西日本の皆さん、真宗どころの仏壇店さんはこういうものを見ると『これは違うだろう』と（笑）…。そういうところでの議論なんだろうと思うんですが。

長谷川 はい、死者供養というところはよく分るんです。これ、絶対なんです。ところがそこには、仏壇には本尊の仏様を祀らなくていいって書いてあるんです。手を合わせるのは本尊ではなく御先祖様と、こう言い切ってるから私は問題だと思わんです。それじゃ、本尊って一体何ですか…日本人が、本尊をお祀りすることとはどう関係があるんですか、と。だったら本尊を祀らなくていいんですか、と…。そうだったらもう、神も仏も無くていいって世界になるんですよ。先祖だけになったら、救済されないんです。日本中に仏教が、広まりましたね。なぜかといったら、死の悲しさを癒してくれるのは仏教の教えしかなかったんですよ。仏教儀式や教えによつてね。だから今の家庭でも、亡くなった人を祀りますというだけで、それで遺族の悲しみが癒せますかというのが本当の話です。死んだ人はどうなった？というだけでは、もうペットを祀ると全く同じになってしまう。これも大村先生のお話ですが…ペットを祀るというレベルで祀りましょうという話になってしまってます。

司会 なるほど。

長谷川 命や親子の情愛の繋がりに思いをさせ、私が命を授かったという、この不可思議な事実は一切何なんだろうかと、内省すること。そこから人生の意味を問うこと、生きる意味や価値を見出し、生きがいとは何かを考えはじめるわけで、このことを抜きにして、ただ先祖を愛着感からだけで祀ればいいというんではね、それはもう万葉集の時代に帰ってしまうだろうと…文化も広まっていなければ物質的豊かさもない、人間の悩みもまだ小さかった頃にね。結局、物質的、文化的な豊かさをもたらされると、そこにまた新しい悩みも出てくるし、悩み自体も深くなっていくんですよ。だんだんそれで進化していくわけですよ。今ではそうやって進化した状態なんだけど、「仏壇が魂棚」と言い切ってしまうと、万葉の時代、物質的にも精神的にも貧しく幼かった、悩みといてもまだまだ小さかった頃のやりかたで癒しましょうっていう話になってしまいますね。

### ■ 仏教と民俗

司会 万葉の時代に日本で初めての盂蘭盆会が開かれています。もう七世紀の末、六百年代後半のことですが…その折に、時の天皇陛下からのお言葉で『七世の父母を祀りなさい』と。これは、『盂蘭盆経』に書いてある文言です。おそらくこのお言葉も、それにとつて書いてあると思います。一方で『盂蘭盆経』というのは、中国で作られた偽経だったわけですね。中国ではやはり先祖供養というものを取り込まないと、仏教が広がりを見せなかったということ…。

長谷川 うん、その通りですね。

司会 だから、東北の方でも土俗的なものと仏教というのはある程度こう、ミックスしていかないか…おそらくは広がりなくかったのではないかと思うんですね。

長谷川 そうですね。

司会 仏教と言った場合に先祖供養や土俗的・民俗的なものを、どういう風な位置付けをしていくべきなのかと…実際、日

『盂蘭盆経』 釈迦十大弟子の一人である目連尊者が、餓鬼道に墜ちた母を救う物語。中国で成立した偽経。

盂蘭盆会 日本で最初に開かれた盂蘭盆会は齋明天皇三年（六五七年）、須弥山の像を飛鳥寺の西につくって盂蘭盆会を設けたことに始まり、その齋明天皇五年七月十五日には京内諸寺で『盂蘭盆経』を講じ七世の父母を報謝させた記録されている。これに先んじて推古天皇

本の仏教というものはお釈迦様の教えというだけではなくて、特に仏壇の場合は民俗的な部分としての要素をたくさん含んでいますので…先祖供養ひとつを取り上げてみましても、まあ東北など地域によつては、今でも土着の、喉仏を仏壇の中に祀るといふような習慣もあります。

長谷川 そうですねえ。いい質問ですねえ…（笑）。

司会 そういったところを先ずですね、今日せっかくお集まりいただいでるんで、ちょっとお話を伺った上で、その先に進んでみたいと思いますが…。

長谷川 日本人にとって仏教とは、一体どういうものだったのかということですね。

司会 はい。青木取締役はどのようにお感じになつてらっしゃいますか、仏教というものを…。

■人を亡くすということ

青木 僕にとつての仏教というと、今の話じゃないんですけど、人を亡くすという経験で初めて触れた世界でしたね。まあ、戦後生まれの団塊の世代の上なんで、やっぱり仏教に対しては、人として生きることに關しての、ひとつの思想という形で受け止めてきました。死を通じて学ぶということを、先ほどもおっしゃっておられましたが、自分がひとりこの世に生まれてきているわけではないのだという意味で、身の周りや横との繋がりを感じていますね。その中で、自分というものを意識しながらどう生きていくべきかと考えた時、仏教の教えがあるんじゃないかと。さらには、死ということを捉えることに關してもですが…仏教の教えといつても、僕の一番好きなのはブツダその人の教えなんです…その後の大乘仏教に入ると、空（くう）っていいですかね、無我とか縁起とかではなくて、『般若心経』の世界まで行つた時に、もう色んな形でものごとが考えられていくわけですよ。そうやって思想も進化していつて、今は一番モダンな時代なんです、明治期以降の近代に入つた段階でも、プレモダン、前近代にとつては基本的な思想であつた仏教というものが、無茶苦茶に捻じ曲げられていつたんだらうと、こう思ふんですね。

十四年六〇六年四月には毎年四月八日（旧曆）と七月十五日に齋を設けるとある。

無我・縁起 いずれも原始仏教での仏教思想。無我が我執の否定。大乘仏教の論の土台を作り上げた龍樹（一五〇〜二五〇頃）は無我・縁起を否定した。

『般若心経』 大乘仏教における空の思想、般若（智慧）の思想を説いた經典。

司会 長谷川社長にとっての仏教というのは、どのようなものでしょうか。

長谷川 一番先にあるのはね仏教じゃなくて、死なんです。死に対する解釈。死というものから受ける、自分の感覚、感情です。まずこれがあつて、それをどういうふうな処理していくかということですね。そりゃ悲しかったり、辛かったり、苦しかったり、淋しかったりと色々あるでしょうが、はるか以前の古代などは、死というものの受け止め方や感情が、今はかなり違つていたと思うんですね。埴輪なんかにあるように、自分達の王様が亡くなつたら一緒に死んだでしょ。埋められて：あの頃の死に対する感覚というのはまだ、仏教なんか受け入れるほどではないですよ。

司会 そうでしょうね。

長谷川 ところがだんだん豊かになってくるとですね、やっぱり生きる楽しさが生まれてきます。そして、死ぬことが何か悲しく淋しくなる、辛くなる：そうすると、長く生きていこうとか、楽しく生きていたいという思いが湧いてくる。力を合わせて生きていこうとかね。そんな中で死というものを自分なりに解釈しようとしてもね、いくら考えてもできないんですよ。いろんな人が、偉い人も考えたと思いますよ。様々なことを言つたりもしましたでしょう。日本では、例の黄泉の国の思想なんかも作つてはいきました。仏教の方が、圧倒的に人間とは一体どういうものなのかということを教えてくれた。それで納得ができたつていうことです。それが日本人の仏教を受容する背景になった。物質的にも文化的にも豊かになったという背景があつたからこそ受け入れられたんですね。そしてずっと受け継いでいると思つています。現代人がかつての、黄泉の国の思想で、仏教無しで今本当に安らげますかという話なんですね。

司会 なるほど。

長谷川 日本の文化そのものが：先ほどの崇り鎮めや、『平家物語』の時代の無常観から、また室町以降には仏教でちゃんとした葬儀を行うようになって、私たち日本人の倫理観の中に仏教が指し示す『五戒』などが定着していった、そしてその結果として、あの江戸という平和な時代が生まれてきたわけですよ。世界でも例の無い平和な日本が：泥棒もいない、そもそ

黄泉（よみ）の国 日本神話における死者の世界。道元禪師は「ただ一人黄泉に赴くのみなり。己に従い行くは、ただこれ善悪業等のみなり」という。（『修証義』）

五戒 仏教の在家信者が守るべき五つの戒。不殺生戒・不偷盗戒・不邪淫戒・不妄語戒・不飲酒戒。

も犯罪者がいない。みんな勤勉で、お互いがとても楽しく明るく暮らし合う、そんな時代を築いていったんですね。当時の檀家制度仏教というものは、一面では、言われるような腐敗もあったでしょうが、ある意味じゃ民衆教化というものすごく良い役割も担っていたんですね。皆が互いに平和に、幸せに生きていくという上で…。

司会 江戸時代ですね。

長谷川 こういうところを抜きに、切り離してしまって、先祖とか死とかいうようなことを語ることはできないだろうと思います。そこを踏まえた上で私達が、これからの様に死というものを受け止めていくのか…先祖と自分と、それに子孫と、さらには世の中の人々との繋がりとこの命の連帯や、多くの人類同士が皆生きていくこの地球というものを、やはりきちんと考えていくべきだと思っんですね。

### ■激しく変わる日本と諸行無常

司会 有難うございました。では、大村先生はいかがですか。日本の仏教の専門家とされましては…今『神仏習合』というテーマがひとつ挙がっていますが、神と仏がいて、また先祖がいるという…あるいは死者がいて、先祖がいるという言い方が正しいのかもしれませんが…。

大村 僕ね、今ものすごく過激ですけどね、あの…お釈迦様の悟りなんてどうでもよくなってるんですよ。

全員 (笑)。

大村 要するに『四諦・八正道』とかね、あらゆる仏教学者がおっしゃってる。教えても下さるんだけど…全然感心したことはないんです、一度も。そんなしょうもないことが、あの方の悟りなんだったら僕は仏教には行きませんって言うんですね。私にとって仏教は、断然、親鸞さま以降ですから…それで今日の日本のお仏教とおっしゃったんですけど、日本人にね、非常にびつたり定着したのはやはり『諸行無常』だろうと思ってるんですね。あの『諸法無我』っていうのは、ちょっと難しいですね。

諸行無常 全てのものは常に変化し、一瞬として同じではないこと。

『般若心経』を聞いてても、僕はあれは難しいな…。

青木 そうですね。特別ね。

大村 さっき申し上げたように、日本は時間がものすごく速いんです。天変地異が起こってくる時間の転換も速い。これは世界一ですよ。だから日本人って慌て者ですしね(笑)なぜそんなに急ぐのかという程。日本の農作業もねそりやもう外国人から見たら、毎日やつてるようなもんです。日々変わって行くから…。

青木 いやほんとにそうです。日本の川の速さなんか世界一です。川の流れるも本当にあつという間です。

大村 まったくねえ。所謂水田ですから、川の流れをちょっと堰き止めておいて、その間にカタカタカタッてやってですよ、ピヤーツと植えてですよ、そのまた次の作業に行かなきゃならないんですから。

長谷川 (笑)。

大村 例えばインドなんかに行ってみて下さいよ。インドでもタイでもどこでもいいですよ。もう、時間がたゆたつていきますよ。やっぱりインドでね、そういう中で仏教が生まれたかもしれないんですけど、日本のような、こんな時間の速い所へ入ってきた後ではね、とりわけこの『諸行無常』という教えがびつたりだったんですよ。

長谷川 ああ、なるほどね。

大村 その上日本という所は非常に儂い…あらゆるものが儂い。だからさっきおっしゃった『平家物語』の世界観はもう国民的感性じゃないですか…『祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす…』ねえ。

大村 だからあの、支配者っていうのもどんどんよく変わりますねえ、また。

四諦 釈尊が鹿野苑での初転法輪の際に説かれた教え。

苦諦・この世界は苦であるという真理

集諦・その苦は迷いになる業が集まって原因となっている真理

滅諦・迷いを絶ち尽くした永遠で平和な境地が理想であるという真理

道諦・八正道こそが苦の滅を実現する道であるという真理

八正道 四諦と同じく初転法輪の際に説かれた仏教の真理。

正見・偏らない正しい見方、中道を意味する。

正思(正思维)・正しい考え方。

正語・正しい言葉。

正業・正しい行い。

正命・正しい生活。

正精進・は正しい努力。

正念・正しい思念。

正定・正しい精神統一、禅定のこと。

司会 今もよく変わりますね（笑）。

■刹那で儂いからこそ

大村 天皇陛下を見てください。天皇も替わるでしょ。よくこんなに替ってるなって、とてもじゃないけど名前も覚えられません。近頃はね、昭和・平成ってね割と長いですけどね。もう代替わりもものすごく速いでしょ。こんなふうに支配構造自体も儂いんですね。だから日本人にとって『諸行無常』というのは、こうした儂さの教えという点で、本当にもう心底からよく分かったんだらうと思うんですよ。ぴったり合っているんですね、今でも縁の儂さというところからは…。

司会 縁えにしですか？。

大村 はい。特に命というものも、そういう縁と考えますでしょ。

いろんな含みもあるでしょうけど、先ほどのお話でも、我々は一体どこから来てどこへ行くのかとか、出会いの不思議とかね。よく考えてみるとみんな儂い：四十億年とも言われている生物進化の歴史の中で、僕ら例えばこうやって、青木さんとお会いできていますが、もうこれほんの刹那ですよ。

青木 そうですね、ほんと。

大村 だけど、刹那で儂いからこそ尊いんです、すごく。いずれは別れてしまう、一期一会という教え、日本人、特に好きでしょ。今東光さんはあれを、千利休の言葉として言っておられましたけど、本当は井伊掃部頭だそうですね、おっしゃったのは。

長谷川 あー、聞いたことあるなあ。

大村 埋木舎という所で、まだ庶子で部屋住みの時代にちょっと拗ねてね、サロン開いてたんです、文学サロン：茶道も学

『平家物語』成立は鎌倉時代と推定されている。平家一族の繁栄と滅亡を語る軍記物語。以下の冒頭部分がよく知られている。

……祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらは（わ）す。おごれる人も久しからず、唯春の夜の夢のごとし。たけき者も遂にはほろびぬ、偏に風の前の塵に同じ。

千利休（一五二二～一五九二） わび茶の完成者。

井伊掃部頭（井伊直弼）（一八一五～一八六〇）  
彦根藩第十五代藩主。江戸幕府の大老。

埋木舎（うもれぎのや）  
井伊直弼が不遇時代を過ごした彦根城そばの質素な家屋。

んでいてね、その指南書の中に『一期一会の覚悟』とあるんです。つまり、茶室でのお出会いは一期一会だと。一瞬で二度と会えないし、会えないのだから、その覚悟をっておっしゃるんですよ。

長谷川 うん、うん。

大村 これなんかもやはり、縁の儂さというのがぴったりと合うんですね。日本人はこういうのとても好きなんです。いろんな所に生かされてきた感性ですね。それからもうひとつ大事なことはね、菊池寛の『恩讐の彼方』にあるような、死んだら仏という考え方だろうと思いますね。もう、死んだらちゃらだ、恨みっこなしってね。

青木 そうですね。

大村 私の父なんかは、もうラジカルで、死んだ人をほとけて言うのはけしからんと…仏教でいう仏(ブツ)とは『覚者』、悟った人のことを言うんですよ。本来、悟れる者を意味する仏(ブツ)と書いて、日本語でホトケって訳してるわけですよ。これ誤植ですよ、極端に言えば。ホトケというのは、多分『ホトホリケ』でしょう。やっぱり死ですよ。こうやって、死ぬことと悟ることを重ねた訳語のおかげで、かえって素晴らしい訳になったと思ってるんです(笑)。

### ■神仏習合と憑霊

司会 このへんで一旦お話を切らせていただきまして、本日皆さんにお伺いしたいテーマのひとつの『神仏習合』というところで申しますと…今のお話で、死者を先祖にしていく、ホトケという言葉と重ね合わせていくと。ミックスしていく能力が非常にあったという…『神仏習合』自体は、世界中どこに行ってもあると思うんですが、特に日本の文化の場合、先祖の魂棚も含めてこの『神仏習合』という部分が、仏壇を一種分かりにくくさせている大きな要因のひとつではないかと。

大村 今、先祖ということが出ましたが、これは基本的には中国仏教になってからですね。インドの仏教では出家主義だったわけで、そもそも家を出て行ってしまっているんですから。仏教が中国に入ってからそこで根付く際に、現地で重んじられて

菊池寛 (一八八一年～一九四八年) 小説家・劇作家・ジャーナリスト。

『恩讐の彼方に』 菊池寛の小説。曹洞宗の禅僧であった禅海(一六九一年～一七七四年)が開鑿した豊前国(大分県)耶馬溪の青の洞門にまつわる物語。

いた先祖崇拜ですとか、そういう習慣、儒教的なイエ制度なんかと一緒に採り込んで、それで中国の仏教として成立したんですね。もともと三年ぐらい喪に服す人達ですからね（笑）。その中国仏教が、日本に渡来してさらに、さっき言ったような日本的心情も含んでいきながら、やはり心の支えとして受け入れられていく。そうでない限り、純粹な思想のままの形では、そこに定着は出来ないんですね。本当にその人々のものにはならないわけです。

神仏習合 日本のお神々と  
仏教の諸仏を表裏の関係  
とするもの。

司会 先生のお話では、全体の中の一つを取り上げて、それを絶対化するのではなくて、いろいろある構成要素の一つひとつが大切なんだ、という…。

大村 それらをどう統合していったら、今生きている人々に真に役立っていかれるかということなんです。それと、ちょっと先ほどの社長に反論するみたいで恐縮なんですが…死ということよりも、やはり普通は御利益の方ですよ。

司会 現世利益ですね。

大村 この世で幸せになりたいんですよ、誰だって死ぬ前に。それと、もうひとつ申し上げておきたいのは、アニミズム・シャーマニズムというのは外国の言葉です、やはり先ほどの『おかげ&あたり』コンプレックス』と言った方がいいと思います。つまり、お陰がアニミズムで崇りがシャーマニズムなんです。シャーマニズムって、これ憑霊（ひょうれい）のことですから。

司会 はい。霊が取り憑くということですね。

大村 そう。霊が憑いて来るね。それはやっぱり、祀られない怨霊の霊を憑けて、彼らの要求をシャーマンが怨霊になり変って言うんですよ。『お前たちが、俺を放っていたから、今こんなひどい目に逢ってるんだぞ、うーん…何とかしろ』って。

司会 関西はシャーマニズムというか『拝み屋さん』が多いですよ。

大村 多いですね。これはみんな、だいたいは苦難側ですね。苦難というか、崇りに苦しんでいる方ですね。それに対して、

お陰を喜ぶときとか、御先祖崇拜というのはどっちかと言えば、割と無難な…平穩無事のお陰を喜ぶわけですから、基本的にはアニメ系ですね。お坊さんは、この両方やってましたけれど。

長谷川 そうですね。江戸時代にはね、アニメ系から道徳まで出て来るとです。これが素晴らしいんです。ただ現代は、そのレベルから進化していますから、じゃあ今そのまま、そこに帰れますかと言っても無理ですよ、江戸時代には…我々現代人の新しい宗教的な心情というものを、きちっと受け止められるような我々自身の在り方、考え方、日常生活の中での文化的取り組み方といったものが、今求められてるんですよ。

大村 神仏習合っておっしゃいましたけど、要するに、御利益は神頼みです。この世の幸せは、神様に頼むんですね。で、死ぬ方が仏様ですよ。もう、早い時期からそう言うて棲み分けてきています。だからお寺は死んでからのこと、先祖供養だけにしときなさいと。この世の御利益は、神様のごへ行って下さいっていう形だったんですよ（笑）。

長谷川 そうですよ。ただ先生、あの『一切衆生悉有仏性』『山川草木悉皆成仏』という言葉がありますよね。万物生命の内に山川草木まで含めて、それにも仏性があると捉えていったら、これは神様は要らなくなっちゃいますねえ。

大村 キリスト教でも、聖母マリア様とか…カトリックでは聖者様もいて、神様の『お取り成し』とか『お取次ぎ』をして下さるんだって言いますよね。

■ご先祖様のお祀りだけで心の安穩は得られるのか

大村 キリスト教の信仰だと言ってても、サンタクローズもそうですけど、全部聖者様がおられるじゃないですか。ちょうど日本では、それが神々だったんだろうと思いますね。同じことです。それで後ろには如来様ですよ。大日如来でも阿弥陀如来でも構わないけれど、背後の最高の所に本地としておられるのが如来様ということ。ところがそれが、何とこの世に、例えば『徳川家康』になって現れる…だから亡くなった後は『大権現』なんです。

一切衆生悉有仏性 『大般涅槃經』の中の一節。

山川草木悉皆成仏 この言葉は仏典の中には見えないが、よく知られた仏教語になっている。一説によれば梅原猛氏の造語であるという。仏典中では「草木国土悉皆成仏」という言葉がよく知られており、この言葉は平安時代の天台宗の高僧安然（五大院安然）の『懺成草木成仏私記』に見える。

サンタクローズ クリスマスの時にトナカイの橇に乗り、子供達にプレゼントを配るサンタクローズであるが、正式には聖ニコラウス。四世紀頃の東ローマ帝国時代の司教。

長谷川 そういうことです。それでね、仏壇のあり方として『手を合わせるのは本尊ではなく、御先祖様』と、こう書き切ってますよ、精神的な安定はあるのか、安心はあるのかって言いたいですよ。あまりにも小さくしてしまっているんですよ、人間の心を…。

青木 アニミズムを心理的な発達段階というところから言いますと、例えば歩いているとき、月が付いて来てくれるように思える。自分の足下を照らしてくれていると。命の元である月の光のお陰で歩けるんだという感覚ですよ。子供だと、じゃあ反対の方へ歩いている人はどうなの？その人にもお月さま付いて行ってるって聞いたたら、頭真っ白でしようけど（笑）アニミズムというのはそういう感じ方ですね。お盆で亡くなった人が帰って来るなんてのもそうですよね。アニミズムはアニメの世界ですから、それこそ魂が、実際に動いて帰って来て、見守ってくれるとかね。

司会 お盆の時に帰って来るっていうのは、ほんとアニメですよ。ものすごいファンタジーだと思いますねえ。

長谷川 巧妙ですよ、ものすごく…とっても良いアニミズムだと思いますか。

青木 やっぱ、仏教もアニミズムの要素を持っていますから。人間心理のひとつの発達段階としてですね。でも長谷川社長がおっしゃったのは、その段階のままでいいのかということですよ。今まで積み上げてきたものを全部やめて、そこへ戻れるのかと…。

長谷川 そりゃ無理でしょって言うてるんです。

青木 一段階だけを選んでそこに戻るといえるのは、実際には不可能なわけで、今は、その後に発達した文化的な広がりみないなものを、もっと大事にして行くべきではないかと感じますね。

長谷川 本尊、関係ないんですよ、仏壇屋さんは、『仏壇は要らない』とは言えませんが『仏像は要らない』とは言えるわけです。彼らが『本尊屋』だったら、本尊が要らないということには絶対反対しますよ。私の所は本尊屋じゃなくて全部やつ

権現 仏が仮に神の姿と  
なって出現したものを権  
現と呼ぶ。木成仏私記』  
に見える。徳川家康は  
山王一実神道により、葉  
師如来を本地とする権現  
とされ東照大権現と呼ば  
れる。

てますけど…というより、お客さま方が位牌だけ祀ってね、はたして本当に幸せなのかって思いがあるわけですよ。やっぱそこには、命はどこから来てどこへ帰るのかというね…『俱会一処』っていう問題があるんですよ。それはまた、アニミズムにも繋がっているんですけどね。そこから始まって今の仏教の思想まで含めたところで、やはり、そういった象徴物を真中に置いておくということではないと…。

司会 その、アニミズムと御本尊というものは、どういった繋がりを持っているんですか。

長谷川 御本尊というのは象徴なんですよ、命の。生まれてくる命、死んでいく命…この不思議なものの象徴です。私達はこの命の中で、蠢きながら、幸せ不幸せを感じているわけですよ。好きになった、好かれたとかね。大事な人に死なれて、悲しんだり。辛さ、寂しさを味わったりしてるわけですよ。

■アニミズム 宮崎駿 宮沢賢治

大村 そうしますと、社長がおっしゃる『山川草木悉皆成仏』というのも、アニミズムだと言えますね。例えば宮沢賢治なんかの世界は、僕もアニミズムだと思いますね。木がものを言ったりしてますもんね。あれ、面白いですよ。やはりあの頃から、岩手県辺りでも森林開発が進んで、木を盛んに伐っていくんですよ。そのことを、彼は非常に悲しんでいたようで、木に避難させてやりたいんですね(笑)それから、木も日向ぼっこしていい気持なんだとか、そういう感情を全部持っているんだって書いてありますけど。これは新型のアニミズムなんです。『ネオ・アニミズム』という言い方をする人もいます。それこそ、山川草木までアニミズムの線で押さえるとすると、これはもう『ネオ・アニミズム』になりますよね。発想が非常に現代的というか、ポスト・モダンですから。

青木 宮崎駿さんの『千と千尋の…』ってあれ、完璧にそうですね。アニメーションですけど。

大村 あれなんかそうですね。ポスト・モダンだって言われてますよね、あれ。今、ヨーロッパでもすごいんですよ。『動物の解放』っていうことを、ひどくやかましく言ってるんです。ピーター・シンガーっていう人がすごく人気があって、菜

俱会一処 『阿弥陀経』の中の言葉。原文は以下の通り。……「舍利弗。衆生聞者。应当發願。願生彼国。所以者何。得与如是。諸上善人。俱会一処。舍利弗。不可以少善根。福德因縁。得生彼国」

ポスト・モダン 近代の後に来る思想や芸術、建築などのこと。

『千と千尋の…』 宮崎駿 監督によるアニメーション 『千と千尋の神隠し』(二〇〇一)。

食主義者がとても増えてきてるんです。イギリスの話ですが。

長谷川 ピーター・シンガーとはどういう人ですか…。

大村 この方は動物の解放論者ですね。例えば、動物実験なんかに反対しておられます。人間のエゴイズムで、勝手に動物の命を取るとは許されない。可哀そうじゃないかっていう主張をされていて。日本が捕鯨をすることも認めていません。

司会 グリンピースですか？。

大村 はい、ああいう運動もしてる人で…僕はそれで、いい加減な奴だなと思ってました。自分達は牛や馬を食べてるくせに、なぜ鯨だけと…（笑）ところが違うんですね、彼らは、牛や馬を食べることも、勿論よくないと言ってるんですよ。

司会 なるほど、それで菜食主義と…。

大村 だから、これはキリスト教界からも異端視されていますし、大変な議論になっていきますけれど。まあ、こういうのもアニミズムのひとつの流れと言えますね。それに対して、日本人のすごいところは、動物だけじゃなく山川草木、等しく草木にまで命を見るんですよ。

司会 ええ、日本では針供養ですとか、筆供養などもしていますね。そういうものまで供養するんだという文化がありますね。

長谷川 ものすごいですよ、日本は。アニミズムの世界が極めて豊かですから…。

司会 まあ、いうなれば供養して手を合わせるのが大好きだという方々が、そろってるってことでしょうか。

大村 一定の持続性がある存在に対しては、全てに畏れを感じるというのはやはり、すごい心性だと思いますね。

ピーター・シンガー（一九四六～）オーストラリア出身の哲学者、倫理学者。主著として『動物の解放』があるが、この「解放」は女性の解放（ウィメンズリブ・ウーマンリブ運動）のパロディーであった。

グリーンピース オランダ・アムステルダムに本部を置く環境保護団体。捕鯨反対運動で知られる。

青木 先ほどのお話ですが、ヨーロッパなどでは神様と言うと大体、人格神じゃないですか。そうではなくて、山岳信仰とか樹木信仰などのように、あらゆる物の中に命を見出す感性が強いんでしょうね。

### ■日本型アニミズムの源流

長谷川 ええ。しかも、物にも命があるというのは、私は事実だと思っんですよ。私達はたまたま人間として生まれてきただけで、みんな同じなんだと。たまたまそうなっているんであって、皆、共通の命の変化した姿に過ぎないと。我々人間は、意識というものがあるから、物事をいろいろ分けて言っているだけなんだ、こう思ってるんです。この辺になつてくると話が難解ですが、最先端科学でも今、そういう捉え方を始めていますね。仏教も、同じように縁起の縁ということで、そういったことを説いているんだと思います。仏教は、信仰や信心ということでは教団宗教と言えますが、本当は思想としても大変深いところがあるんですよ。ただ、難しく分らないから、例え話で教えてるということなんです。親鸞聖人の『他力信仰』も、私達なんかには分らないんで、あのような教え方になるんですね。

大村 十七条憲法の『二に曰わく、篤く三宝を敬え。三宝とは仏と法と僧なり』ですが、これは分かりますね。三宝、仏法僧ですよ。『則ち』とあって、次に『四生の終帰』と、四生と書いてあるでしょ。これがね、要するに四種類の違った生まれ方をするといので、あらゆる命ということなんです。人間の命が胎生、魚類などは卵生、それから植物が湿生でそれ以外の、自然にほわっと生まれ出てくると考えられていたものを化生と呼ぶんですけど。ここで全て平等の命として扱われているんですよ。初めから、このように三宝の終帰として全部書いてある。この感性ですね。

長谷川 うーん、そうですねえ。

青木 そういった意味では、キリスト教の平等意識の方が遅れていましたよね。アメリカでも黒人解放はまだ成し遂げられていませんし、その後、女性の解放が叫ばれ、所謂ウイメンズリブ・ジェネレーションですが、次には子供、それからだんだん動物にと…(笑)でも、そもそも仏教というのは、バラモン教で言うカーストを否定するところから始まっていますよね。

カースト バラモン教における身分制度。バラモン(聖職者)・クシャトリヤ(貴族)・ヴァイシヤ(平民)・シュードラ(奴隷)・先住民

だから今、インドで復活している仏教も、基本的には最低カースト層の人々の宗教になっています。このように、もともと仏教には平等の思想というか、エコロジー思想のようなものが既に備わっていたんですね。僕はそこが、非常に新しく、素晴らしいところだと思ってるんですよ、仏教の：人類が今やと気付き始めたことを、最初の時点から語っていたんだというね。思想的な広がりを持ったその心を大切に、新しい時代に伝えていくことが、これからは必要になっていくと感じていますね。

### ■仏教にとって大切な「懺悔」

大村 キリスト教がね、原罪意識なんておっしゃいますけど、僕は仏教の方が、もっと懺悔ということをやっていると認めますよ。『もったいない』という言い方の中には、絶対『申し訳ない』って気持ちが入ってますよ。やはり、出来るだけ無駄に命を取りたくないとかね、命を取った時にも『食べさせて頂いて有難うございます。あなたの命を頂いたお陰さまで：』という気持ちで、『もったいない、もったいない』って言ってきたんですね。これもまあ広い意味ではやはり、アニミズムなんですけれども：今、再評価されているアニミズムというのは、そんな原始心性としてのアニミズムとは違いますので（笑）もともとアニミズムという用語は、ヨーロッパの宗教史学の中で出てきた概念で、非常に原始的な心性とされていますから。

司会 キリスト教の文化から見たときに、ということですか。

大村 そうですね。こういうものは、キリスト教以前の未開宗教的なものということになっています：でも今僕が、日本など仏教国について言ってるのは、そういうものじゃないですから、仕方ないのでアニミズムという言葉を使う場合には、ネオ・アニミズムと言ってます。僕はもうそんな言い方せずに『お陰さま』でいいんじゃないのって：お陰さまの思想ですよ（笑）何でも、お陰さまなんです。

司会 天台の『法華懺法』を見ますと、内容は、とにかく懺悔せよというもので：人間が如何にくだらないかってことを、それこそもう徹頭徹尾、繰り返し書いてあるんですね。で、そのことを自覚せよと：仏の前で礼拝し、五体投地して謝りなさいというようなことが書かれています。私はそれを見て初めて、仏教というファクターの中で、今先生がお話になった

原罪 アダムとイブにが犯した人間としての初めての罪。この罪により神の救いなしに人間に救いはないとされる。

懺悔 仏教では「さんげ」、キリスト教では「さんげ」と呼ぶ。

『法華懺法』（ほつけせんぼう）『法華経』の教えにより、自らの罪を懺悔すると同時に、世の中の一切の罪障を浄めることを目的とするもの。

懺悔という視点が欠けていると言いますか、ほとんど言及されていない部分ではないかと感じたわけなんですけど。

大村 そうなんです。例えば『悪人正機』という教えは、あれは懺悔なんです。前提は。悪人は懺悔するから救われるんで、善人は懺悔しないから駄目だっておっしゃってるんですね。その懺悔という線を抜いてしまったら、『何で、悪い奴が救われるんだ。悪い方がいいのか…』(笑)ということになってしまふんですね。

長谷川 仏教では『慙愧無き者を畜生と為す』って言うんです。

大村 そうそう。『慙は地に恥ず、愧は天に恥ず』と言って、ものすごく強調されるところで、懺法というのはどの宗派でも持っているんです。

司会 浄土真宗にもございますか。

大村 僕らは『改悔文』って言ってますね。今は『領解文』という言い方をしますけど。必ず『ガイゲ、ガイゲ』って言うんです。

司会 『法華懺法』の中には『猿のように心を騒がせ…』という一文がありまして、私はそれを読んで思わず『これって、自分のことだ』と…(笑)。

大村 そうそう、あらゆることを言ってますよね…我々の御開山(親鸞聖人)がね、最期、自分の死体は賀茂川に流し魚に与えよ、とおっしゃったんですけどね、あれは放生するっていう、自分の命を他の者に与えていくというね…そう、法華の懺法の一つですよ。

### ■仏壇店、死を見据えるという使命

大村 『法華経』というのを引かれませんか、皆、『法華経みたいなものは、御開山と関係ない』と言ったり、日蓮さんの

『法華懺法 意根段(抄)』

心より懺悔したてまつる。我すべて生きとし生けるものと諸共に、限りなき古えより、意善ならず。あらゆるものごとくに貪著して、狂おしく愚かしくふるまいつづけたり。

時に応じて、貪ほり、瞋(いか)り、愚癡の意を生ず。是の如きの邪なる意は、よく悪業を生ず。十悪、五逆等なり。

たとえばそれは、猿が心を噪(さわ)がして落ち着かざるがごとく、膠の身に着きて離すこと難きがごとし。

慙愧無き者を畜生と為す『大般涅槃経梵行品第二之四』「無慙愧者不名為人。名爲畜生」(大蔵経デジタルデータ T0375\_120720b27)

『領解文』もろもろの雑行雑修自力のころをふりすて、一心に阿弥陀如来、われらが今度の一大事の後生、御たすけ候へとたのみまうして候ふ。

たのむ一念のとき、往生

せいでやたらと法華経を敵視したりしてますけどね、親鸞聖人って方は天台・比叡山に二十年おられたんですから…あそこは法華の牙城ですからね、そのくらい身に付いておられるんですよ。おっしゃられないだけですよね。それに気が付いてないんです。

青木 たまたま今回、宗教史とか仏教史についての本をいくつか見て来たんですけど、仏教の中では天台宗も真言宗もどちらも密教系ですから、かなりアニミズムが取り入れられていますよね。密教から派生した、後の山岳仏教の山伏達も、一種の神官として、神道とも結びついてますよね。

長谷川 仏教の革命のように言われる鎌倉仏教は、密教、特にその加持祈祷が流行り過ぎて、そこからもう一遍帰ろう、ということと元に戻ったようなものなので、あれは革命でも何でもないと言われますね。

司会 奈良時代にはすでに所謂、僧侶としてのライセンスを持っていない『聖(ひじり)』という人達がいきました。親鸞聖人は非僧非俗、つまり『坊主のようだけれど坊主じゃない、けれど坊主だ』とおっしゃったりもして…とところでどうなんでしょうか。仏教の中で、今このライセンスを持ったお坊さんと、仏壇店さんという在俗で仏壇を売りながら、仏の教えを広めていくという立場の在り方というものは。

大村 あの、うちの大谷光真御門主がね、長谷川(裕一)会長さんのことを『これはもう、開教師ですわね』とおっしゃっています。坊主が出来ないことをして下さったとね。

長谷川 私ら仏壇屋は、仏壇のことだけ言ってるようですけど、死んだ命に対する様々な思いがあるわけですね。生きることとそのものの悩みも含めて、命を考えていますから。祀り事をするのもそうですが、生きていく上での、非常に重要な文化的役割を担っていると思ってるわけですよ。日本の中で、これを一つの分野だと捉えたとするならば、絶対無くてはならない文化の一角を担っているグループだと思ってるんです。お坊さんから始まって、葬儀屋さん、仏壇屋、お墓屋さんまで、そういう一つの集団があって、これはこれで、日本人の死というものをしっかり見据えると同時に生きるということを考える上でもね、役に立っていく社会的ミッションがあるんだと思ってるんです。それを言わないで、仏壇業界が生き残れるか

一定御たすけ治定と存じ、このうへの称名は、御恩報謝と存じよろこびまうし候ふ。この御ことわり聴聞申しわけ候ふこと、御開山聖人(親鸞)御出世の御恩、次第相承の善知識のあさからざる御勸化の御恩と、ありがたく存じ候ふ。このうえは定めおかせらるる御掟、一期をかぎりまもりまうすべく候ふ。

自分の死体は… それ  
がし親鸞閉眼せば加茂河  
にいらて魚にあたうべし  
〔改邪鈔〕覚如。

非僧非俗 「しかればすで  
に僧にあらず、俗にあらず。  
このゆえに禿の字をもつて  
姓とす」(坐死罪或改僧儀賜  
姓名処遠流予其一也爾者已  
非僧非俗是故以禿字為姓)『教行信証』

大谷光真(一九四五) 浄  
土真宗本願寺派第二十四  
代門主。

どうかってなことばっかり言ってるから、それじゃ駄目でしょと。仏壇業界だけ、自分の所が生き残るかどうかだけしか語っていないのは、そりやおかしいですよ。やっぱり死を通して、お坊さんから葬儀屋さんから全体で以ってね、みんなでひとつの日本文化というものを、どう支えていくのか？もう一度、人々皆の役に立つよう、どう再生していくのか？という大きな役割があると思うんですよ。そういうふうには、この仕事を導いていきたいと考えています。

青木 今、お仏壇をお買い求めになるお客様も、大抵はどなたか身近な方が亡くなられてという場合が多いですね。僕はそれもまた、ひとつの方便じゃないかと思うんですよ。僕自身まさに典型的な近代人で、以前体を壊して倒れたことがあったんですが、その時になって初めて、自分に体があるんだ、と：頭だけじゃないんだって気付きましたからね（笑）：身近な者の死という事で言えば、最初、祖母を亡くして、それで九州へ戻ったんですけど、その時、やっぱり自分ひとりが生まれて来たんじゃないかって、ちゃんとこういう人達がいて、その人達から可愛がられたのが自分なんだと感じました。その後僕は、祖母に続いて親父、お袋、祖父を、それから家内の義理の親父さんとその家内も亡くし、さらに義理のおじが亡くなって：最近、再婚したんですけど、その今の家内の母も、それに去年は妹も失ったんですよ。もう九回ぐらい：変な話ですが、僕はその度に色んなことを考えさせられてきました。で、ひとつの思想的なものとして、何かを考えるとときの拠り所となっているのが、やはり僕にとっては仏教なんです。このように、近代を経た今の人々にとって、仏教思想というものの大切さに触れる契機というのは、身近な人の死を通じて、ということがほとんどじゃないでしょうか。ですから、仏壇に限らず、お葬式までを含めての、供養という形を通して、仏教の持つ文化とか思想といったものに触れていくことが大事だと思っています。我々は一般の立場に過ぎません。しかし、かつての国家仏教・鎮護仏教に飽き足らない人々が聖（ひじり）として、無免許ながら今で言うNPOとして教えを説いていったように、同じことをビジネスを通じて：もちろんビジネスとして成り立たせつつも、果たしていききたいと思っっているんです。日本人の信仰文化を守り、広めていくことが、これからも、はせがわの大切なミッションだと考えています。

大村 僕も全く同じですね。神道なども一緒に入れていいと思っっているんですよ。さっきの『魂鎮』のことなんか言うと、みんな怒るんだけどね。僕は、『いけないんですか』って聞くんですよ。そんなこと言ったら駄目なんです。法華宗さんも、日蓮宗さんも、みんな仲良くしなくちゃいけませんよ。さらに仏教だけでなく、やはり神道も守っていかなくてはいけないと思います。今、神社も弱って来ておられて気の毒なんです。結婚式も減っていて大変ですよ。つい十五年前までは、七

鎮護仏教 国家を護るための仏教のことで、奈良時代から平安時代の仏教のことを指す。最近では王法と仏法という観点から鎮護仏教の内容を再検討する学説もある。

割が神道式でやってた結婚式が、今では、八割がチャペルじゃないですか。可哀そうに宮司さん達、ほんとに食べて行けなくなってきたですよ。そりゃ、神社も寺も有名な所は大丈夫ですけど、中小零細企業は大変なんですよ、今は…みんな文化なんです。神仏習合というおとなしく、優しい文化を持っていたじゃないですか。もったいないと思いますよ。神道の人も皆仲良く出来るんです。魂鎮だったら出来るじゃないですか。

青木 そうですね。共通して持っているものを、大事にしていかななくてはいけませんね。

大村 本当に儂い縁であればこそ、仏教のね、死んだら仏、チャラって、こういうのも皆いい文化でしょ（笑）。

### ■心の荒廃という問題

長谷川 戦後の心の荒廃という問題がありますよね。やはり一番の原因は、日本国憲法の下での新しい家族観ですね。そこには、『個人として尊重する』と書かれてはいますが、家族として、という考え方は一切無いんですよ。家族や集団のことは、全く構わないようになっていきます。だから日本は今、その辺は非常に冷たくて、例えば誰でも、海外へ行くのは自由なんで行くわけですが、行った先で日本人を守ることについては、国に責任があるのは認めていても、基本的には『そりゃ、あなたの勝手じゃないか』という理屈なんです。国側は。ほとんど守らないといっています。よその国はそうじゃありませんよね。まあ、これはキリスト教精神のもとで、ということなんでしょうけど、すごく国民を大事に守るんですね。日本は、個人になったとたんに、あなたの勝手ですって…お互いが勝手に、バラバラに切れちゃうんですよ。それが結局、親子の絆までも切っていくきつつあるというのが、今の私の思いです。これを回復させていくにはやはり、仏教の持つ慈悲ですとか、それ以前のアニミズムの、万物全てに等しく命があるといった感じ方、みんなが共に生きているんだ、というようなものの考え方、受け止め方を広げていくしかないだろうと思ってるわけです。

青木 大村先生から教えて頂いたのですが、『イエ制度』という場合のイエというのはウチのことであると。さらに日本は、国家という言い方をしますが、まあ国に家って付けるのは日本ぐらいのもんなんですけど…こういう家族制度を拡大延長した果ての、疑似の体制として『天皇様はお父様』というようなものも含めて、かつての『イエ思想』は、結局不幸な歴史

を生んだということも否定されました。でもそのとき一緒に、イエではない、本来の家族の思想というか、家族の絆といったものまでもが全部否定されてしまったわけです。当然否定するべきものと、逆に最も大事にすべきものが一度に…そこに現代の日本人の家族観とか、心の混乱のようなものの遠因があると思いますね。これを再び回復していくということは、完全には無理なんですよ。繰り返す言うようですが、仏教的な発想を通して、少しずつ変えていくしかないのかなと…。

大村 だから僕も、お仏壇のことを『ホーム・チャペル』って言うんですよ。さつき浄土観とおっしゃいましたけど、僕は『どこから来たの?』って聞くわけです、いつも。我々『どこへいくの?』っていうのは、『どこから来たの?』と聞くのと答えは同じです。常にね。だから一休宗純が、『わしが死んだら、どこへいくんでしようか。どうなるんでしようか』って聞かれて、『さあ、わしもどっから来たのか分らんなあ』と、これからどこへ行くかなんてとても分るわけがないとね、そんなことは、分かっている者に聞いてくれておっしゃったと(笑) いうエピソードがあるんですけどね。いかにも一休らしい突き放し方なんですけど…僕は一体どこから出て来て、そしてどこへ帰って行くのか、命の循環ということを突き詰めていけばまた、アニミズムみたいなところへ戻りますが、やっぱりその中でも、家族の、血の縁(えにし)ですよ。先ほどから縁、縁と言ってますが、家族の繋がりも含めてね、その前の先祖をずーっと辿っていくと、そのどこからか、確かに僕らは湧いて出て来たんですけど(笑)。

司会 柳田國男さんの『先祖の話』が定義していることの一つは、浄土観ということですが、それとこの、戦後の家族の在り方について、ひとつ非常に強調されていますのがやはり、『亡くなったら、先祖になるんだ』という点です。具体的に言うと、日本人は死ぬと骨になるんじゃないかと、位牌になるんだと。そうやって先祖になっていくんだと。恐らくその連帯なり結び合いつているのは、生きてる人だけじゃなくて、先祖の繋がりと子孫の繋がりと、これら三世に亘る広がりを持つた関係だろうというのが、柳田さんの本を読んでいて感じたことなんですけど。

### ■天国へ行った「石原裕次郎」

大村 だから、柳田のいい所は、取り上げていくといいんです。ただ我々は、命のふるさとしていう言い方をしています。浄土真宗は徹底的に『俱会一処』って教えますのでね。そういえば、こないだ石原裕次郎の二十三回忌がありましたよね。『総

一休宗純(？)一四一四)  
一休さんで知られる臨濟  
宗の禪僧。

俱会一処(くえいっしょ)

『阿弥陀經』の中の言葉。「舍利弗。衆生聞者。应当發願。願生彼國。所以者何。得与如是。諸上善人。俱会一処。舍

持寺に眠っている石原裕次郎』と言っていますから、祭場（国立競技場）に総持寺を持って来ておられる。御位牌も置いてありますし、総持寺の御本尊まで持って来たって言うっておられるわけです。それなのに、奥様も渡哲也さんも『天国の裕次郎は、さぞ喜んでいると思います』って…。

全員（笑）。

青木 傑作ですねえ。

大村 それから渡哲也が、『天国の裕ちゃんに聞こえるように、皆さんで、裕ちゃんって言いましょう！』って言いましたでしょ。天国のって…こんなに混乱しているんですよ。残念なことですね。しかもそれを聞いてて、テレビのワイドショーなんかに出てる、くそインテリがね、誰一人おかしいと言わないんですよ。僕なんか、もう、瞬間的にショックを受けてしまっ  
て…。

司会 石原プロに抗議の電話をしないといけない（笑）。

長谷川 ただね、矛盾は無いんですよ。そこは、やっぱり魂思想があるんですよ。魂はどこへ行ったかっていう。確かに彼岸へ逝ってるってわけですよ。しかしまた同時に、位牌を祀ったら位牌の中にいるんです。極楽浄土より帰って来て、ちゃんと面倒見てるよ、というわけですよ。それが位牌の存在理由で、ものすごく日本人に分かりやすいんです。

青木 先ほど信じる宗教と感じる宗教っていうのでは、感じる方ですね。

長谷川 感じる方です。ベースはね。

青木 広告をやってる代理店のA Eがいるんですけど。多分、一番今風な近代人ですよ、ずっと社長をやって。その人がね、突然『お仏壇に仏さまがいらっしゃる時、お墓には誰がいるんですか？』って言うんですよ。頭で考えると分かんなくなる

利弗。不可以少善根。福德因縁。得生彼国。」（舍利弗、衆生聞かんのもの、まさに発願してかの国に生ぜんと願ふべし。ゆゑはいかん。かくのごときの諸上善人とともに一処に会することを得ればなり。舍利弗、少善根福德の因縁をもつてかの国に生ずることを得べからず。）

石原裕次郎（一九三四～一九八七）俳優。天国からのラストメッセージ「ありがとう」石原裕次郎二十三回忌祭典は二〇〇九年七月五日、国立競技場で行われた。

んですよね(笑)。

大村 お盆の時なんかね、霊迎えしてる。庭で迎え火焚いて、もうこちらのお仏壇の方へお迎えしてるんだから、『そしたらもう、お墓からこっちへ来ておられるはずんだけど…』と言いながら、やっぱりお墓へは行かれるんです。どこ行つてらっしゃるのかしら…って。『千の風になつて』もね、結局『お墓の中に僕はいません』でしょ。で、お彼岸の時に漫画でね、お墓へ行こうとしている人がいて、あの歌が流行ってるから頭の中には『そんな所に私はいません』ってあって、『じゃ、僕はどこへ行けばいいの?』ってというのがありました(笑)。

千の風になつて 新井満による訳詩。元詩はアメリカ合衆国発祥とされる詩(通称『Do not stand at my grave and weep』)である。

長谷川 やっぱりアニミズムですね。万物に生命がある、どこにでも生命が遍在してるって感覚なんですよ。

大村 と、という意味ではもう、天国でいいんですかねえ…。

長谷川 天国で、私はいいと思いますよ。ただ、天国はいいんですけど、仏教で天国は思想になりますかってことです。もの考え方の。そういう背景が無いんです、日本には…。

青木 縁起の思想と、先ほどの『諸法無我』という思想を、限定的に取るとするとですね、お仏壇で言えばそれ自体に価値があるわけではないと。無価値ですね。

そうではなくて、お仏壇に手を合わせるといふ縁の中に価値があると。お墓でも何でも、そういう縁というものにこそ真実があり、それが心の豊かさをもたらしているんだと思つてます。ただその、手を合わせる対象がどういうものなのかによつて、こちらの気持ちにしても表す心であつても違つて来ると思いますが、そこはよく考えないといけません…まあ、物自体に価値があるんじゃない「無価値」って考えからは、どこに手を合わせようとも、そこで祈ることで縁というものに繋がっていきけるんではと…。

大村 ただね、あんまりそれで行かれるとですね、お浄土ということがもう、いよいよ言えなくなつてしまふんですね。

青木 やっぱり、浄土の「俱会一処」みたいな教えが、一番安心感があるし、色々説明もつくと思うんですよ。天国と言ってもそれは、どこなんですか。これ、あんまり説明つかないですよ。お墓も含めお仏壇は、僕はドラえもん『どこでもドア』だと思っんですよ。そこを通して向こうに行ける。で、行った向こうに広がってる世界をお浄土って言ったり、天国って呼んでも構わないわけですけど、こっちの生きてる者の世界から、あちらの世界へ通じる扉のようなもんだと考えた方が…。

長谷川 うん、考え方はいいんですけどね。ただ実際は、場が要るんですよ、手を合わせる所としての場が。さらに拝む対象物が要るんです。そういう気持ちになれる場と、対象となる象徴物が無いと自然に手は合わさっていかないんですよ。やはりそうすることで、場を含む全体が尊くなるんですね。仏壇も尊いし、仏具も尊いっていう形になると思っんです。

青木 多分、そういう心が仏像を造り出し、仏壇という形を生み出したんでしょうね。元になるものを生み出していったわけですね。

長谷川 大本はそういうことです。祀りたいという思いなんですよ。愛着感なんです、多分。これもある意味、アニミズム的な世界でしょうね。

司会 今、青木取締役は『無価』、ということをおっしゃられましたけど、実際には、仏壇もお祀りする時にはお寺さんに来て頂いて、『魂(たましい) 入れ』をもらってから礼拝するわけですよ。お坊さんによっては、魂入というのは位牌と仏像はするけど、仏壇はしないそうなんです。でも仏壇にも魂が入っているという感覚が確かにあり、仏壇屋さんレベルで言うと、例えば、古い仏壇の引き取りの時は、『お性根抜き』をした仏壇じゃないとどうも、何かあった時に気色悪いとかで、仏壇も合わせて魂ということを考えてるようで、きつとそこん所は…。

長谷川 そうです、そうです。針供養や何かと同じで、その中に命が宿つてると思われてるんですから。だから、仏壇をゴミ箱に捨てるなんてことはないし、絶対に許されないんです、これはもう。そんなことをしたら社会問題になりますから。『あの仏壇屋、ゴミ捨て場に仏壇捨ててるよ』って言われた時点で、世間に知れ渡って、だれもその店に買いに行かなくなりますよ。

大村 昔は仏壇は、抵当物件には絶対出来なかったって本当ですか。税務署がきても差し押さえの紙を貼ることもなかったって言いますけど…。

長谷川 宗教用具には、財産価値が無いからじゃないですかね。仏壇には相続税が掛からないですから、財産とは看做さな  
いんですね。

■ご本尊から見られているという感覚

司会 では、その心の豊かさというものを、仏壇の前でどうやって実現させて行ったらよいかということですが。特に今、  
家族や一族、先祖のことなどについてお寺様の方からは、お仏壇の前で檀家さんにどういったお話をされていますか。

大村 ええ、やっぱり先ほどから言ってます、縁の儂さと、その広がりということですかね。それと、ホーム・チャペルつ  
て言いましたけど、このお仏壇の前での言わばホーム・ミサが持つ意味合いですね。

長谷川 ホーム・ミサっていい言葉ですよええ。

大村 こういう風景はね、世界にも無いんですよ。こんな立派なものを家庭に設えてる所はね…その代り向こうの方は、教  
会に行かれるわけです。日本では皆さんお寺へはお参りに来られませんね。坊さんの方からの訪問サービスばかりです  
から。お寺の方へもお参り頂きたいんですが、しかし各御家庭にこういうお仏壇があって、朝な夕なにホーム・ミサをなさ  
る…『朝（あした）に礼拝、夕（ゆうべ）に感謝』というね、これはやはり、日本の家族のものすごく大事にしたい原風景  
ですよええ。

大村 そこで、檀家さんには、人というのは夫婦であっても、親子であっても本当に儂いものですよというお話をしますし、  
我々は亡くなった御先祖を含め、色んな人のお陰で生かされているんだということも強調したいですね。もうひとつは、仮  
に悪い人間であっても、どっかで日本人には、死んだら仏という、チャラにしてやろうよってね、平和な心というか、あま

り恨みを引きずらないところがあるんだということを、教えたいですね。

「朝題目 夕念仏」は比叡山の習慣。

司会 青木取締役は如何ですか。

青木 そうですね。家内を亡くしたとき、子供が独り言で『ペットでも飼ったら仕舞いやね』とか言ったらしいんですけど。別に独り言じゃなくても、話せる場っていうのが仏壇の前ですよ。駅行って一人で話したら、気違いじゃないですか(笑)。やっぱ安心して話せる所ですよ。もうひとつは、あの前で向き合うってことは、こちら側から話し掛けてるって意味では、ある種未来なんで、自分を振り返ったりするような空間というのは、やはり先ほどおっしゃるホーム・チャペルではないですか。今の都市生活の中では、そういう時間を持つことが無いんで、こういったひと時が心の豊かさに通じると僕は思っています。

司会 特に今、見られてるっていうことを感じる機能というものは、著しく低下してますね。

青木 だからこそ御本尊が要るのになって、思いますね。相手が写真だったら対話ですけど、御本尊だと見られてる感じがします。そうすると自然に手を合わせる気持ちが生じるし、仏に願いを掛ける心にもなると思います。あちらの世界から照らされて、今の自分を省みたりもするでしょう。これからも大切に行きたい心の豊かさですね。そういう意味でも、お仏壇というのは素晴らしい文化が生み出した、知恵の結晶でありアートだなって気がしています。

### ■心の荒廃のリカバリー

司会 では、長谷川社長はどうですか。今、何が荒廃していて、どのようにして行けば、その辺をリカバリー出来るというお考えですか。

長谷川 ええ、先ほどもお話ししましたが、個人主義なんです。個人主義化させられてるんですよ、どんどん。日本には今まで個人主義っていう経験が無いのに、どんどんそうなってきたから、大混乱してるわけです。日本人は、個

人として生きてきたんじゃない、やはり家族を含めて集団主義なんです。だから個人と言われた時、どうしていいかわからなくなったんですね。集団の中で、誰かに頼って生きてきたんです。会社の中なんかでもそう思います。一旦、会社に入るとみんな、同じような仲間になってしまう。よその会社とは区別した自分達の同類に、いつのまにかなっていく。個人としての自立した意見を持つてる人は、あんまりないんですね。でも、集団的だと何となく感じていても、みんな結構いい仕事するんですよ。それが日本人ですね。大村先生の御本では、フランスなんかは、『国は個人』だそうですね。

大村 はい、それで『教会が神』なんです。

長谷川 それでいいんですよ。ただヨーロッパには、その背景として個人と神が、直接繋がってるって感覚があると言いますね。だから、個人主義でも社会が乱れないんです。暗黙の了解として、道徳的価値観のようなものがきちんとなるから、個人同士であつても、世の中がちゃんと保たれるんです。日本の場合は、個人をそうやって切り離していったら、もう無茶苦茶になってしまうんですよ。やっぱり、あくまで集団として整えていかなきゃなりませんから。まずは、家族ですね。さらには地域社会というような形で以って、お互いが繋がりが合っていくことが必要だと思うんです。それなのに、国家は全然知らんぷりですから。その上、文化人達が率先してイエ制度を否定しただけじゃなくて、家族、まで否定しましたから、もういよいよバラバラですよ。

司会 具体的には、どうしていったらいいんでしょうか。

長谷川 こうなったらもう一度、私達がしっかりと集団としての自覚を持って共に手を繋いでね、お互い同士より良く生かし合うっていうか、思いやりながら生きて行くしかないでしょうね。そういう生き方とか心を育む土台は、何と言つても愛情です。親子の愛情の繋がりはなんですよ。ここの重要性を今、きちんと受け止め直していくといった指導教育が、絶対必要だと思っています。

司会 確かにそうですね。

長谷川 先ほど、先生御指摘の『お陰さま』の心ですね、広げていきたいですよ。これは、どういうことかと言うと『この親の元に生まれて来ようと思つて、生まれたわけではない。この子を産もうと思つて、産んだわけではない』という縁の不思議：そもそも、命というものは誰が創ったわけでもなく、皆たまたま賜ったもので、今こうやつて生かされてるんだという気持ちです。こういった全ての恵みに対して、お陰さまと感謝して生きていく心なんです。じゃあこの、お陰さまとは、何から出てくるの？つて聞かれたら、やつぱり私はね、こう言いたいんです『この世の中に、目に見えない大いなる働きがあつて、それは清らかで美しく、そして全てを生かしているんだよ。その象徴物が、神様であつたり仏様であつたりするんだよ。この神仏から私達は皆生まれてきて、やがては帰つて行くんだよ。だから神仏はいつも、私達が喜ぶように働きかけて下さつてるんだよ』つてね。全ての恵みを、我々に与えてもらつてるわけですから。初めから心の中に、人を殺してもいいんだとか、苦しんでもいい、悲しんで自殺した方がいいんだ、なんて気持ちを持つて生まれて来る人なんていませんし、そんなことの為に生まれて来た人なんか一人もいやしいんです。私はそういう考えは全部否定します。やつぱり人間誰しも、より幸せに生きたいという願いを持つてるんです。それも全て賜り物だと思ひます。それなら素直に、幸せになれるようにお互い思ひやつて、力を合わせて行きましようと呼びかけたいし、何事にもお陰と感謝する気持ちを、世の中に広めていかないとつて思つてます。

■位牌だけ結構ですというお客様

司会 お仏壇屋さんとしては、何か特にお気づきのことなどございますか。

長谷川 そうですね、私達、お仏壇という現場にあつてお客様を見ていますと、『位牌だけで結構です』とおっしゃる方もおられるんですが、後から改めて仏様をお買い求めになることもあるんです。それでお届けするということになつた時、『仏があつた方がいいかね』つて言われるから、『そりゃあ、あつた方がいいですよ』つてお答えしたんです。それで、『自宅に持つて行つて、お仏壇の真ん中に仏像を据えてからお位牌を置くとね、座りがいいんですよ。』うーん、やつぱりいいね』とこうなるんですね。これは多分、ただ単に自分の肉親の位牌を置いておくだけじゃなくて、もつと大きな生命感みたいなものも、そこに合わせて据えることで、心が落ち着くという、人間としての素直な気持ちなんですよ。そこは皆誰でも分ると思つて、その辺をもう一度復回復させていきたいですね。こういう命の繋がりを感じて、縦や横の関係だけじゃなく、もつ

と広げて宇宙全体まで行くと思うんです。

司会 地球、『ガイア』というような視点ですね…。

長谷川 そう、ガイア。もう全部含めて。我々がお互い、宇宙創造以来の長い歴史の成り立ちに対して、『やっぱりすごいなあ』という素直で敬虔な思いを抱きながら、暮らして行ければと願っています。

青木 その意味から言っても、やはり本尊は要りますよね。

長谷川 本尊が無かったら、生きようがないんですよ。本来は死にようがないんです。

青木 位牌だけだと、自分とこの家だけが幸せならいいってというような話で…。

長谷川 エゴイズムですよ。

青木 広がりを持たないんですよ。『家を守って下さい』だけでは、その家が平和でありさえすればいいんであって、御本尊というもの無しではそこで止まってしまっただけです。広がりを持って、互いが繋がっていくには、御本尊が必要なんですね。

### ■お寺の活動

司会 これから、実際にお仏壇を買おうという若い世代の方もいらっしゃると思うんですが、お互いに繋がりが合うと言ってもですね、NTTドコモのCMで『もつとつながる。ケータイでつながる』ってやってましたけど（笑）何かすごく、今どきの言葉で言うのと薄ら寒いと言いますか…携帯のメールでパチパチやるより、お互い会って話した方が表情も見えていいんじゃないかと思うんですが、若い人に言わせると携帯の方が、コミュニケーションが何だかよく出来るんだそう。こういう、コミュニケーション下手で、お互いが一歩退いてじゃないとうまく付き合えないという風潮の中で育ってきてる方々が増え

ていく中で、日本の宗教とかお仏壇など、これからどういう風に変化して行ったらいいんでしょうかね。

長谷川 心はね、絶対、形に表さないといけませんね。儀式としての。そう思って私は、小さな儀式用具を無料ででもいいので配りたい、と思ってるんですけどね。そのきつかけを作るのがなかなか難しいんですよ。『祈りませんか？』って言うのも、皆『要らない』と言いますね。だけど、今の日本でもやっぱり、朝、子供達が手を合わせて『行ってきます』と、帰ってきたら一言『ただ今帰りました。今日も一日ありがとうございました。また明日も頑張ります』などと言うだけで、もう家庭は全然変わりますよね。まずは親が、率先してそういう祈るといふ姿勢を示さなきゃいけませんよ。それに習って、子供も手を合わせるような暮らしに変わって行けたら、日本もまるっきり変わると思いますけどね。

司会 地方ですと、そうやってお仏壇が有る生活の中で育った方も、結構いらっしやるんですけど、この都市圏では、全く無いという暮らしの方も多いと思います。そういう人達にも、先ほどおっしゃるような先祖との繋がりといいことで、お仏壇を置いて頂くにはどうしたらいいんでしょうか。これはもう、お寺さんの方でも都市布教されておられるようですけど…どうやって伝えて行こうと思われてますか。

長谷川 まだ、いい方法は見つかってないですねえ。宗教教団はみんな、お葬式から入ってますよね。じゃあ、そうやって入信して行った方の誰もが、皆きちんと心を回復させて行くような方向に、うまく繋げて行けるかっていうと、実際はどうなんでしょうね。まだまだ不十分なんじゃないでしょうか。

司会 去年、曹洞宗のお寺さんの集会がありましたして、総持寺さんと本山の永平寺さんの両方も参加されて、京都で集まったんですけど、道元禅師の禅風、禅に打ち込むということをほとんどやってないじゃないかと言うんで、そのことがコンプレックスになってるようでした。それに加えて、禅僧と言っても、師匠は大体父親であるということや、妻帯に対するコンプレックスも持っておられるようでした。師匠が自分の親父っていうのは、元来は変だと。曹洞宗の教えから言いますと、そういう肉食・妻帯であるという根本的な部分に対して、また家庭生活が有るということについてのそこはかとなない矛盾感があるんだと。同時に、実際は葬式で食べてるということも、本来、矛盾してるんだと…この二点が、なかなかすっきりとは解消されておられないようでしたね。

大村 我々の方もね、逆の矛盾があるんですよ。つまり、彼らは出家主義を標榜されているながら、実質上は肉食・妻帯という事で矛盾が有るんですけどね、我々は、在家主義なんですよ、非僧非俗だと言ってるんでしょ。それにも拘らず、プロの坊主なんですよ。やはり矛盾してるんですよ。例えば、專業の坊主の方が威張ってるんですよ。僕のような二足わらじは：自分では『第二種兼業寺院』って言ってるんですけど：（笑）でもこんなのは、食って行けないから仕方なくやってるんだと思われて、ものすごく蔑まれてるわけですよ。こちらから言わせたら、在家生活をしながらというのが大事で、檀家衆に全て依存するようではプロの坊主になってしまつと。僕はそういうのを、宗教の専従者って呼んでますよ。

司会 なるほど。

大村 それはおかしいと。本来我々は、在家主義なんですからね。そもそも僧侶の格好すること自体、特別必要ではないんだと。普通の格好でも構わないわけですよ。門徒さんにもそういうことを、堂々と言えなきゃいけないんですよ。言えないから、格好付けてるんです。馬子にも衣装ですね。

長谷川 原点に戻らなきゃいけないですよ。お釈迦様が悟りを開かれた時、しばらくは、他の者に説いても難しく分らないだろうと思われて、そのまま坐つてらっしゃったところ、梵天さんがやってきて、『皆に説いてくれ、分る者もいる。是非その話を伝え仏法を教え広めて、皆を幸せにしてやってくれ』と言つて頼まれたんだそうです。お釈迦様は迷われた後、立ち上がつて説き始められたんですよ。その時の御釈迦様こそが、まさに慈悲のお姿そのものですよ。慈悲に帰るんですよ。ところが自分の教えでは、悟りを開く所までで止まることかしばしばあります。悟りの後の慈悲の世界をあまり語らない。お釈迦様が、立ち上がつて人々の方へ行かれたつていうのは、慈悲なんですよ。悟りつていうものは、遍く慈悲に働かなきゃ駄目なんです。そしてさえいければ、妻帯していいようが何していいようが関係ないですよ、そんなことは。

司会 これも去年だつたと思うんですが、或る大きな宗派の教学部長さんが『近所で焼き肉食べる時すごく気を遣う』と（笑）。

長谷川 うん、それは分るんです。

梵天勸請（ぼんでんかんじょう） 釈尊が悟りを開かれた後、梵天と帝釈天が悟りの内容を広めるように勧めた。

司会 でも、そうやって懺悔して…恐らく檀家さんの前でも後ろめたい気持ちになるんだと思うんです。お坊さんが、自分の子供を連れて焼肉屋にいるって、見てすぐ分るんですよ、近所の人。それがすごくコンプレックスになってるんだと。まあ、面白可笑しくおっしゃられるんですけど、とても信頼のできるお坊さんだと思いました。

長谷川 それはそれで、いいんですけどね、やはり新しい、現代の仏教にして行かなきゃいけないですよ。宗派仏教になると、形式だけの仏教になってしまうんです。死んでしまうんですよ。

### ■お釈迦様の教え

大村 そうなんです。お互いの宗派の特性ばかり言うとな、そうなるんですよ。一種の原理主義になる。日本ってこれは、本当はものすごく中途半端だったと思いますよ。例えばあの松尾芭蕉だってね、頭剃って坊さんの格好をして旅に出てみたり、頭陀袋を持っていたりするわけですよ。それに一休宗純なんか、明らかに結婚してまし、平安末期の親鸞様の頃でも、結構結婚して子供もいる坊さんがたくさんいたんですよ。信西入道でも皆そうです。だから、特定の一面を徹底させることだけに拘泥してしまうのは、近代主義だと思えます。今の御指摘の通りですよ。これではもう、根本は何かってことを見失って行きかねないと思いますね。法然さんも、自分が一番やり良いような形で、如来の慈悲を修して行けばいいって言うておられますね。『形はどうでもいい。お念仏修養さえしていれば』と。結婚した方が念仏し良いのなら、結婚すればいいし、聖として独身でいた方が念仏し良いのなら、独り身でおればいい。とにかくお念仏さえするのなら形は問わないっておっしゃってるんですよ。曹洞宗であっても、命となる核心がもし禅だと言うのなら、それをして行く為には何が一番良いのかというように、考えられたらどうかと思いますねえ。あるいは在家方に禅を勧めたいとおっしゃるのなら、自分も同じ生活をする、それでもなおかつ、こうするんだと。そうされたいだけのことだと思っただけですけどね。如来様の願いを実現していくという、最終的な目的をどうやったら一番良く表現できるかというだけですから。

長谷川 自力教は、慈悲を言わないから苦しいですよ。やはり慈悲の働きを大いに語るべきですね。

松尾芭蕉（一六四四～一六九四）俳諧師。蕉風と呼ばれる俳諧（俳句）のあり方を確立。

信西入道（一一〇六～一一六〇）平安時代末期の貴族・学者。

大村 最初に申し上げたように、少なくとも、今の古典仏教学者達が教えるところの、御釈迦様の悟りだとされるものは下らないと思つてます。あれは、上座仏教で言つてるだけで、『四諦・八正道』とか、あんなもんだの道徳に過ぎませんよ。御釈迦様の悟りというものは神秘主義なんです。本当のところは、誰にも分らないぐらいのものなんです。そういうように理解してね。だから親鸞様は、御釈迦様がこの世にお生まれになった理由は唯一つ、『大無量寿経』をお説きになる為だと言つておられるんです。出世本懐ですね、つまり。これを説く為にこそ生きる、自分はいるといふね。もつと言えば、おっしゃるように如来の慈悲を説きたいんだと。

長谷川 悟りとは何かと言つと、悟りで安穩になるわけですよ。慈悲が届いているということなんです。また、真実にはなぜ意味が有るのかと言えば、真実が私達に安らぎを与えるからですね。究極の幸せ感を与えてくれるわけですよ。平等感とか、自由感とか全てのものをですね。それらはみんな、私達にとっては慈悲なんです。真実というものも、慈悲に働かないと意味が無いんです。単なる真実など何にもならないんです。慈悲あつてこそ、我々人間が求める苦を抜くこと、抜苦に繋がるんですよ、何事も。『般若心経』にだって一番最初に出てるでしょ：『度一切苦厄』ですよ。苦厄を救うつて、全部あれは、慈悲の計らいですから。こちら側の、衆生を穏やかにしていく力をそう呼ぶわけです。

## ■覚者 仏 ホトケ

司会 今日の長村先生のお話を伺つて私が非常に感じましたのは、原理主義にならないで、もう少し曖昧にしておけばどうかということですね。大江健三郎さんが、ノーベル賞を取った時に『あいまいな日本』、アンビギュアスつて言葉で言つてましたけど、何事もやや曖昧な方が楽に行けるのではと…。

大村 と言うかな、それも何でも欧米語で語られるんですよ。どうしてもシャーマニズムとかアニミズムみたいに分けてしまいますし…僕なんかやつぱり、(おかげ&あたり)コンプレックスつて言いましたけど、それで翻訳してるつもりです。例えば、さっきもお話ししましたが、仏つてね、仏(ブツ)が『ホトケ』と訳されてしまったんですけど、そこにすごい値打ちがあると思うんですよ。なぜなら、『覚者』の意味だったものが『死者』と繋がったんですから。そうなるって死ぬということが、浄土往生を意味して、そのまま成仏でもあるんだということが出来るわけですよ。意外にも…だからキャラに出来

上座仏教 タイやミャンマー、スリランカ等の仏教。以前は小乗仏教と呼称されていた。

出世本懐 如来所以興出世 唯説弥陀本願海

(如来、世に興出したもう所以は、唯、弥陀本願海を説かんとなり)(『教行信証』)

大江健三郎 (一九三五～) 小説家。一九九四年ノーベル文学賞受賞。ノーベル賞受賞の記念講演で、川端康成のノーベル賞受賞記念講演の「美しい日本の私」をもじった「あいまいな日本の私」を行う。

るんですね。『もう仏じゃないか、成仏してるんだから』ということが言えるわけですよ。こういう言葉の綾のようなものは、常に生まれていいと思いますよ。それなのに今我々は、欧米的な『二項対立図式』のような考え方を借りて、はつきりと正・反付けて区別して行くといった、プラス・マイナス思考法ばかりに気を取られていますので、その辺がうまく言い表せないんですね。

青木 近代のひとつの特徴は、言葉で表現出来るものしか相手にしないということですよ。それを今、仏教などのような言葉には置き換えられないものを如何に伝えて行くのかという問題がありますね。先ほどの曖昧さというのも、難しくしていますし…。

大村 言葉にして語り得ないからこそその値打ちというものがあるんだと思うんですが、どうやってね…それを伝えようとするれば、どうしても言葉で以って語らざるを得ないんで（笑）そうなることやっぱり、一見非常に曖昧な表現法になってしまうですよ…。

青木 そのときは、形式的だったり、教義には無い言葉を使ったりするのやむを得ないと思いますね。やっぱり、何か言わなければ伝わらないんじゃないかと感じています。

大村 歌のようなものでか…俳句を使うとかね。そういう形にしなきゃいけないでしょうか…。

長谷川 何とかしないとイケないですね。私達の能力ではなかなか難しそうですが…そういった、えも言われぬ大なるものの働きを表現していくってことは。しかし、あえて言葉にしなければならぬんですけど、そのやり方がまだ、はつきりとは見つかってないという葛藤がありますね。

司会 都市部には、一昔前ですと戦後に勃興した新宗教が色々あったわけですけど。今、都市には宗教が本当にありません。宗教的空白状態になっている所に、何かきっかけがあればと…。

大村 東京砂漠ですよ。やっぱり宗教的砂漠だって思いも、ほんとありますねえ。だから『千の風』もそうだし、あの『おくりびと』が流行るっていうのも皆、何か求めてはられるんですよ。要は彼らは求めておられるんですよ。やっぱり、ああやってみんな、宗教の手前の所で止まっているわけだから…。

長谷川 それともうひとつ言えることは、宗教の力という点で、それに対してもう少し努力していく必要があるんですね。教えに沿ってきちんとやってくることが…そうすると達成感があるんです、何がしかの。宗教側も全部受け身でいるだけじゃね、やっぱり駄目なんだと思いますよ。歌でというお話が出ましたけど、そういうものも含めて具体的に何か活動するとかね、運動するとか目に見えることからやって行かないけませんよ。そうして行けば、ここまで出来たんだっていう達成感も持てるし、その気持ちも、世の中にも広まっていく可能性だってあるんじゃないでしょうか。ただ一方的に受け止めているだけでは、何も変わりませんよね。一人ひとりが少しでも活動して、行動に移すってことを広めて行かなくちゃ…。

■お寺に人が集まるといふこと

大村 そういう意味ではね、『ジャパン・クール』、これが、ものすごくヒントになるんじゃないかと思ってます。日本アニメとかね。例えば、群馬県の何とか神社っていうところなんて、『アニメ聖地』と言われて若い人がいっぱい行きますよ。それで村おこしにもなってるんですよ。若者が集まるから、町が活性化してるんです。うまくそれを利用してね。

司会 うちの会社がある逗子の海岸にライブハウスがあるんですがその名前が、『音霊（おとだま）』というんです。それで壁なんかに火の玉みたいなマークがあるんですね。今、御指摘のアニメとかに加えて、この音霊という所も、わざわざ音楽を音の霊という言い方で違和感なく受け入れられて、言わば『疑似宗教』のような…そこにまるで聖地みたいにしてた…くさん人が集まってくるという…。

大村 いや、おっしゃる意味はすごくよく分りますよ。つまり自分も動いて体が共鳴するっていう、そこがね、僕ら坊さんにとつては、皆すごく忘れてるところだと思えますね。だから一緒に動けと。檀家衆も皆一緒にいることで、ぱーっと盛り上がり上がって行くということが大切なんだってね…今、非常に盛んなのはコーラスだけなんです。もう、只でいっぱい来ら

ジャパン・クール クールジャパン (CoolJapan)  
狭義にはアニメやゲームなどのポップカルチャーを指し、広義には家電などの日本製品、日本料理、茶道・華道・武道などの伝統文化を指す。

群馬県のアニメの聖地の神社 富岡市・貫前神社  
高崎市・榛名神社

音霊 逗子海岸（神奈川県）にある夏季限定のライブハウス。

れるんです。お金出さなくても、女性コーラス隊がね、御堂さんで歌わせてあげるって言ったたら、ドカーンって集まりますもん。

長谷川 全国から来るんですよ。曹洞宗さんの『梅花講(ばいかこう)』。あれはものすごかった。それが、ガーツと衰えてしまった。曹洞宗のね、実際の実力っていうのは『梅花講』だったんです。

大村 禅よりも、むしろ御詠歌です。すごかったんですよあれは…。

長谷川 御詠歌で『般若心経』あげてたんですね。

大村 そうそう。それで女性達ですから、ものすごい活力でね…(笑) おばさんパワーで大変でした。

長谷川 特に北日本は盛んでしたよね。

大村 はい、全国大会やったらどれだけ人が集まったと思いますか…高松のどこそこのお寺で、とか言ったらもう、大変な騒ぎだったんですよ。『梅花講』と言えば…それが今、こんなに衰えちゃったでしょう。で、お西はコーラスはとても盛んですよ。

大村 昔は『正信偈和讃』って言ったたら、みんなで一緒にやってたんですよ。こんな小さい子から全部で…意味なんてどうでもいいんです。共に行い、共に救われるという所が大事なんですよ。孤立じゃないんです。おひとり様じゃないんですよ。僕は方々で、『おひとり様じゃ駄目ですよ』って書いてますけど。『いや、亡くなったお子さんがどうだというのではなくて、あなたなんです。あなたが救われないと、死んでいった者も救われないんです』って言うんですね。

長谷川 そうそう、親ならそうなんです。

梅花講 曹洞宗の御詠歌・和讃を鈴鉦を用いて唱える講のこと。現在、国内外に十七万五千人の講員と六千四百の梅花講があるとされる。

『正信偈和讃』 親鸞の『教行信証』の「行巻」の中にある七言六十行百二十句の讃歌。

大村 つまりそこなんです、共に…ですよ。この気持ちをね、僕は蓮如さんっておられる。親鸞さんもみんなそうですよ。共にですよ、絶対。ひとりじゃない。

長谷川 あのね、キリスト教が日本に根付かなかった一番の理由も、それだって言いますよね。『洗礼を受けないと救われな  
いんだったら、うちの爺さんや婆さんは救われないのか』って聞くと、救われなと言っているので『なんでだ、そんな冷たい神  
様は要らない』と…(笑) これが、あまり広まらなかった最大の理由らしいですね。

司会 でも一方で、同じく先祖供養が盛んな韓国では、意外とキリスト教の信者が多いと言いますね。

大村 ああ、キリスト教の方も上手になっておられますから。そんな、ザビエルの頃の布教とは全然違います。僕フランス  
で笑いましたよもう…『私達は皆、家がキリスト教』だって言うから、『家の宗教ですか』って聞いたら、そうですよって。

全員 (笑)。

大村 日本語のよく分るフランス人でしたからね。『そりゃ、親からずっと全部どこそこ教会だから、一応キリスト教会でも、  
大村先生流に言えば、家の宗教ですよ』ってね。先ほど言ったように、個人を救うのは国家なんです。これは徹底してます。また、  
その為の神学が社会学なんですね。ところが教会っていうのは、やっぱりすごいですよ。家族なんですね、家としてですよ。

司会 一方で、先進国では教会へ行く人が減ってるらしいですね。この間も『読売新聞』の朝刊に、イスラエルでも聖書離  
れが進んでいると出てましたし…。

大村 イギリスがすごいです。

司会 ええ、イギリスでも国教会へ日曜日に行く人の数はすごく少ないです。イタリアも結婚式でも教会でやるっていう概  
念のある若者が少ないと…。

長谷川 ヨーロッパは『キリスト教会に、年に何回行きますか』って言えば、結婚式と何かと、二回ぐらいだと…。

大村 立派な教会は、礼拝だけではもたないですよ。それで大抵は駐車場に貸してるか、ファッションショーやってるか、何かしておられるんですよ、色々…。

長谷川 あれはやっぱ、神が死んでいますね。豊かさが、死なせたんですよ、神を。

大村 そうでなきゃ、オランダのあんな、『安楽死法』なんて出て来ませんよ…。

オランダの安楽死法案  
二〇〇一年に法案可決。

司会 先ほどより社長の方から、豊かさ、という言葉が何度も出ましたけれど、きつと、この豊かさの中での宗教は難しいだろうと…。

長谷川 それで、悩みがね、深まってるんですよ。単純じゃないですよ。悩みが難しくなってくる、高度化してくるんです。

大村 ああいう、唯一神教ってものは、貧乏でないことやっぱり駄目だと思います。先ほど申しましたように、多神教化するんですよ。僕らはね、『如来様だけで全てが出来る。お念仏ひとつです』って、こう教えるんですけどね、でも隣の人がお地蔵さんとかお稲荷さんや大黒さんなんかを置いて、いい思いをしてるのを見たら、ならうちもしようってことになるんですよ。そりゃ多神教化して行くんですよ。どうしてもね、豊かになると、そりゃねえ…唯一神教という、絶対神への信仰というのは、やはり貧しくて、もうそれしか他に頼るものが無いっていう人々のものですよね。

長谷川 大村先生によれば、その昔は、入信する理由というのは『貧しさと病氣と争い』だったと。それが今は『病氣と虚しさ』と霊魂が憑いてること、『病・無・霊』になったんだっておっしゃるんですね。そういう風に、変わって行くわけですよ。だって誰でも、貧しさからは絶対逃れたいでしょ。まあ病氣が苦になるのは、今でも一緒ですけどね。争い事も、家族同士のなんかはもう堪らないですね。

司会 今、霊が憑いてるといって思い出したんですが…私がここ一年の内、題名を見ただけで思わず買ってしまった本がありました。女性の図書コーナーにあったんですけど、これが『呪いの解き方』って本なんです（笑）思わず買って読んだんですが、ある時その本の書籍広告が出てまして、ずいぶんと増刷を重ねていることを知りました。私は大村先生の御本を讀ませて頂いて、女性と男性の違いを述べておられる所にすごく共感できたんですけど、男性の図書コーナーには絶対こういう本はありません。

長谷川 無いよねえ（笑）。

司会 でも、女性向けのコーナーには『あなたの運命が開く色の…何とか』だとか、挙句の果てに『呪いの解き方』には、例えば『お線香を焚いて、その灰をどうとかして、袋に入れて持ち歩き』だとか。

大村 やっぱ新興宗教でも、天理教の中山みきさんをはじめとして皆女性でしょ。憑霊っていうのは昔から、巫女、あの盲目の女性達のものでしょ。恐山もそうですよね。だから女性は、霊が憑くんだというような、シャーマニズム系の崇り信仰でずーっと来ることが多いんですね。あの恐山には日蓮宗のお寺もあるんですよ。口寄せが終わった後で、どんちゃん騒ぎしてんです。吹っ切れたみたいに。死んだ子の声を聞いて、皆泣いてね。そりゃもう大勢が、合宿みたいにお寺に集まって来て、バーって大騒ぎしてカタルシスというような…。

長谷川 物の怪も、女ですもんね。『もののけ姫』でしょ。もののけ王子っていうのは…（笑）。

司会 うーん、女性がここでもキーポイントですよ。今日は、話が様々な分野に及びましたが、本当にありがとうございました。

『呪いの解き方』  
著。三五館刊。川井春水

（終わり）